

科目名	臨床人間学	
担当者	野添 新一 / NOZOE, Shin'ichi	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	科学技術の進歩は私どもの生活や生き方を急変させているが、現状はむしろ人間の能力をも凌駕しつつある。ここでは、それらを踏まえつつ先ず、文明の歴史を振り返り、現時点で明らかとなった脳科学の知見、ストレスのもたらす心身への作用とその結果について解説する。また高齢社会の到来による問題点を捉え、自らの問題として対処法を考える。更に、最近希薄となりつつある「生と死」の問題をも学習する。
	到達目標	文明化・情報化・技術化によって人間がどのような影響を受け変容しているかを学習するのが主眼である。人間の臓器の中で最も重要な脳機能について最近の知見を学習する。ストレスの心身に及ぼす影響について理解を深める。文明化によって増加する新しい病気について理解し其の予防と治療法を学習する。医療技術化にもたらされる問題を理解し自らの人生に役立てる。高齢社会を向かえてそれに随伴する問題を学習する。個人化が進み増加するトラウマ問題や希薄化する生と死のテーマについて学習する。
授業計画	(1) なぜ臨床人間学を学ぶ必要があるか (2) 脳の時代-脳は出会いで育つ- (3) 死生学 (4) 心身症 (5) 嗜癖-そのメカニズムと実態 (6) 出生前診断-其の功罪 (7) 痛みの人間学 (8) 摂食障害 (9) 自殺 (10) うつ病 (11) 生活習慣病 (12) 老い (13) トラウマと人間 (14) 生と死 (1) (15) 生と死 (2)	
自学自習	事前学習	・各テーマについて予備知識を得ておくこと
	事後学習	・配布資料から、自分の興味や関心を広げてほしい
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	講義毎にプリントを配布する. 参: 生・老・病・死を考える 15章 実践人間学入門(庄司進一著) 朝日新聞社
成績評価の基準と方法	基準	数回の小テストを講義終了後実施して評価に加える。
	方法	講義の中からテストを実施して理解力を評価する。採点はテスト 80 点, 小テスト 20 点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学概論	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	こころの科学」といわれる心理学が成立した過程や、心理学がなにを目的として、どんな問題を解決しようとしているのかを、心理学のさまざまな研究領域を通して紹介する。
	到達目標	心理学のさまざまな領域について、必要な基礎知識を得ることと、人間の行動やこころについての研究方法を理解する。心理学史上における主要な研究者やその研究について概要を述べることができる。心理学のさまざまな領域について、必要な基礎知識を得ることと、人間の行動やこころについての研究方法を理解する。心理学史上における主要な研究者やその研究について概要を述べることができる。
授業計画	(1) 心理学とは何か：心を科学する、現代心理学の流れ (2) 感覚と知覚：感覚（感覚閾、刺激と感覚の関係、……） (3) 感覚と知覚：知覚（知覚の体制化、錯視、運動の知覚、……） (4) 行動のメカニズム：生理学的基礎、生得的な行動、習得された行動 (5) 記憶：記憶と情報処理、記憶のメカニズム (6) 記憶：日常生活からみた記憶、記憶の病理（PTSD、……） (7) 感情：感情の理論、感情と脳 (8) 発達：発達心理学の主要理論、発達心理学の研究法 (9) 発達：認知的発達（ピアジェの発達理論） (10) 社会性の発達：（愛着の機能と発達、対人関係の発達、道徳性の発達） (11) 社会：社会心理学における自己、社会的認知と態度 (12) 社会：対人関係と对人的影響、集団心理 (13) 個人差：パーソナリティ、知能、心理アセスメント (14) 心の障害と支援：心の支援の在り方 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、授業の初めに前回の授業内容を振り返る。
使用教材・参考文献	使用教材	吉崎一人他編著『心理学概説』ナカニシヤ出版、2010年。
	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	心理学の基礎的な専門用語や、著名な心理学者の研究について、概要を説明できる。
	方法	試験(70点)と授業への参加度(30点)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育学概論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育の思想・理論・内容・方法・制度・歴史・現状など、教育学全般について概説する。また、各自が自分に引きつけて振り返り、考えやすいようにするため、随時、身近あるいは時事的な問題・話題を取り上げて論じる。
	到達目標	①教育に関する基礎知識を身に付け、教育学の領域と特徴について大まかにつかみ、視野を広げる。 ②自分自身の学習を援助する（自己教育）という客観的な視点を持ち、生活の様々な場面で実践できるようになる。
授業計画	(1) 教育とは何か —教育の本質と目的— (2) 教育の思想 —子ども観・教育観— (3) 人間の発達と学習 (4) 教育の制度と行政 (5) 学校教育 (6) 教育の内容① (7) 教育の内容② (8) 教育の方法① (9) 教育の方法② (10) 教職論 (11) 大学生の教育環境 (12) 生涯学習社会と教育 (13) 教育の現代的課題 (14) 教育改革の動向 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	レジュメと参考文献をもとに、基礎的な用語や考え方の理解を確実にしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。プリントを配布する。
	参考文献	・木村元・小玉重夫・船橋一男著『教育学をつかむ』有斐閣 2009年 ISBN 978-4-641-17711-6 ・篠田弘編著『資料でみる教育学』福村出版 2007年 ISBN 978-4571101373 このほか、適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	積極的にコメント欄に記入するなどして、自分で考え実践する姿勢を示し、定期試験で基礎知識の習得を確認できた場合に合格とする。
	方法	出席態度 45%、コメント 15%、テスト 40%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会福祉学 I	
担当者	中村 年男 / TOSHIO, Nakamura	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会福祉には様々な分野があり、分野ごとに機関、施設が設けられ、専門職者が配置されている。本講では、私たちの生活を支える社会福祉の歴史、法律、制度、サービスについて説明する。
	到達目標	①社会福祉の理念と目的を説明できる。 ②生活問題について理解し、問題解決に向けた支援方法を導き出せる。 ③地域にある社会資源を理解し、生活問題の内容に応じて活用できる。
授業計画	(1) 序論（講義概要、社会福祉とは） (2) 社会福祉の歴史①（古代～江戸） (3) 社会福祉の歴史②（明治～大正） (4) 社会福祉の歴史③（昭和～平成） (5) 社会福祉の歴史④（平成） (6) 社会福祉の行政機関①（厚生労働省、障害者更生相談所、福祉事務所など） (7) 社会福祉の行政機関②（児童相談所など） (8) 中間の振り返り (9) 児童福祉①（児童福祉の歴史、児童を取り巻く社会情勢） (10) 児童福祉②（児童や保護者の生活を支える社会資源） (11) 児童福祉③（児童や保護者の生活を支える社会資源） (12) 児童福祉④（児童や保護者の生活を支える社会資源） (13) 高齢者福祉①（高齢者を取り巻く社会情勢） (14) 高齢者福祉②（高齢者やその家族を支える社会資源） (15) 高齢者福祉③（高齢者やその家族を支える社会資源）	
自学自習	事前学習	使用教材を用いて予習をすること。
	事後学習	理解できなかった内容は、自らが調べたり教員に質問すること。
使用教材・参考文献	使用教材	鬼崎 信好『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』（2016）講談社 ISBN 978-4-06-156315-5
	参考文献	厚生労働統計協会『国民の福祉と介護の動向 2015/2016』（2015）厚生労働統計協会 ISBN 4910038540958
成績評価の 基準と方法	基準	社会福祉の理念と目的を説明できること。また、生活問題の解決を図る社会資源を理解し、問題解決に向けた支援方法を述べることができた者を合格とする。
	方法	受講態度（20%）、チェックシート（15%）、中間の振り返り（15%）期末試験（50%）などにより総合的に評価する。2/3以上の出席を前提とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会福祉学Ⅱ	
担当者	中村 年男 / TOSHIO, Nakamura	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会福祉には様々な分野があり、分野ごとに機関、施設が設けられ、専門職者が配置されている。前期の社会福祉学Ⅰに引き続き、私たちの生活を支える社会福祉の歴史、法律、制度、サービスについて説明する。
	到達目標	①社会福祉の理念と目的を説明できる。 ②生活問題について理解し、問題解決に向けた支援方法を導き出せる。 ③地域にある社会資源を理解し、生活問題の内容に応じて活用できる。
授業計画	(1) 序論（講義概要、社会福祉とは） (2) 障害者福祉①（障がい者を取り巻く社会情勢） (3) 障害者福祉②（障がい者やその家族を支える社会資源） (4) 障害者福祉③（障がい者やその家族を支える社会資源） (5) 地域福祉 (6) 低所得者福祉①（低所得者の現状） (7) 低所得者福祉②（低所得者への支援施策） (8) 中間の振り返り (9) 医療福祉①（医療情勢） (10) 医療福祉②（医療機関の仕組み、医療の職種） (11) 医療福祉③（患者への医療、社会福祉的支援） (12) 医療福祉④（患者への医療、社会福祉的支援） (13) 医療福祉⑤（患者への医療、社会福祉的支援） (14) 医療福祉⑥（患者への医療、社会福祉的支援） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	使用教材を用いて予習をすること。
	事後学習	理解できなかった内容は、自らが調べたり教員に質問すること。
使用教材・参考文献	使用教材	鬼崎 信好『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』（2016）講談社 ISBN 978-4-06-156315-5
	参考文献	厚生労働統計協会『国民の福祉と介護の動向 2015/2016』（2015）厚生労働統計協会 ISBN 4910038540958
成績評価の基準と方法	基準	社会福祉の理念と目的を説明できること。また、生活問題の解決を図る社会資源を理解し、問題解決に向けた支援方法を述べることができた者を合格とする。
	方法	受講態度（20%）、チェックシート（15%）、中間の振り返り（15%）期末試験（50%）などにより総合的に評価する。2/3以上の出席を前提とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	生涯学習概論Ⅰ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修、「生涯開発論」と同一科目	
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。この時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をもとに考える。
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。 自らの生涯にわたる学習のイメージをつかむ。
授業計画	(1) 「学び」の本質と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 学校と生涯学習 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相—NPO・ボランティア活動 (9) // —まちづくりと生涯学習 (10) // —女性の生活の変化と生涯学習 (11) // —子育て・青少年教育と生涯学習 (12) // —高齢者と生涯学習 (13) // —情報化と生涯学習 (14) // —グローバル化と生涯学習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深め、ノート整理をすること。
使用教材・参考文献	使用教材	適宜プリントを配布する
	参考文献	丸山英樹ほか『ノンフォーマル教育の可能性』新評論 2013年／田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『社会教育』日本青年館
成績評価の基準と方法	基準	現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。
	方法	授業中に課す小レポート 30点、期末試験 70点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人権論	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	「人権」は、さまざまな視点から論じることが可能であるが、この講義では、主として人権思想の歴史的展開について考察する。「人権」は物理的な《モノ》ではなく、西洋で生まれてきた《アイディア》であるということをまず理解してほしい。そして、このような「人権」の考え方が、現代社会において実際にどのように機能しているか、という点についても考察してみたい。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権思想が前提としている「人間観」について考察する。</li> <li>・日本語の「権利」と、「right」について、両者の異同を理解する。</li> <li>・近代人権思想の類型について理解する。</li> <li>・現代社会における人権の機能についての知識を得る。</li> </ul>
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 「権利」とright (その1) (3) 「権利」とright (その2) (4) 人間観について (5) 西洋における人権思想 (その1) (6) 西洋における人権思想 (その2) (7) 西洋における人権思想 (その3) (8) 西洋における人権思想 (その4) (9) 西洋における人権思想 (その5) (10) 日本における人権思想 (11) 日本国憲法と人権 (12) 人権に関する法制度 (13) 現代社会における人権の意義 (14) 国際社会における人権 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する（特に指定する教材はない）。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この講義を通じて学んだこと」が明確であると認められる場合に合格とする。</li> <li>・人権思想のあらましが理解できたと認められる場合に合格とする。</li> </ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートまたは試験による。</li> <li>・「学習報告（この講義を通じて学んだこと）」を提出する。</li> <li>・詳細は講義時間に説明する。</li> </ul>
備考	この講義は、正確な知識や技能を修得するというよりも、各自の視野を拡大することを主なねらいとします。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学実験 I	
担当者	◎神菌 紀幸 / 木下 昌也 / 小林 純子 / 白井 祐浩 / 野上 真	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 後期 / 実験 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	心理学においてこれまで蓄積されてきた心理学的理論や法則，モデル等を実験を通じて実際に体験しながら，基本的な実験，調査，観察，計量の仕方を学ぶ。
	到達目標	実験を通じて，種々の心理事象について関心を深めると共に，心理学の基礎知識を習得する。 また実際の実験遂行，データ処理の仕方，レポート（論文）の書き方など，科学研究活動に必要な初歩的技能を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) I．感覚・知覚心理学分野 (3) I．感覚・知覚心理学分野 (4) II．社会心理学分野 (5) II．社会心理学分野 (6) まとめ (7) III．行動研究の基礎 (8) III．行動研究の基礎 (9) IV．学習心理学分野 (10) IV．学習心理学分野 (11) まとめ (12) V．認知心理学分野 (13) V．認知心理学分野 (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・オリエンテーションで配布する資料をよく読んでおくこと。 ・不明な用語は関連する書籍等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各分野・領域ごとにレポート課題を課す。 ・必要な事項は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回の実験に参加し，その都度，必要な要件を満たしたレポート課題を提出すること。
	方法	最終成績は，各回を担当する教員がそれぞれ独立に評価したものの合算による。
備考	1年生の受講は認めない。1限目と2限目の両方とも受講すること。上記内容の実施順序は変更になる場合がある。 再履修クラスもこれに準拠するが，子細は別途指示する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	心理学測定法	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、心理測定の論理およびそこで得られるデータの意味や処理のしかたについて講義する。
	到達目標	基本統計量、実験計画に関わる言葉の意味及び統計的検定の手続きについて説明できるようになる。また、コンピュータ上で統計処理ができるようになる。加えて、統計学の思考法によって心理測定で生じうる問題に対応できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理測定の問題点/データの種類 (3) 度数分布と正規分布 (4) 代表値と散布度 (5) 2つの変数同士の関係 (6) 2つの変数同士の関係 (7) 復習 (8) 推測統計の基礎 (9) 実験計画の基礎 (10) t検定 (11) 復習 (12) カイ2乗検定 (13) 復習 (14) 要因計画と分散分析 (15) 復習	
自学自習	事前学習	毎回事前課題を出すので教科書などを見ながらきる範囲内で内容について予習して調べておくこと
	事後学習	何回かに一回課題を出す
使用教材・参考文献	使用教材	吉田寿夫『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房 1998年
	参考文献	授業中指示する
成績評価の基準と方法	基準	下記方法により上記目標に到達できているかどうかを判断する
	方法	事前課題の答え合わせ (50%)、および授業中出す課題 (50%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	古典的条件づけ及びオペラント条件づけを中心とした学習の過程について講義する。各テーマにおいて多くは動物実験の話から始めるが、最終的にはヒト(子どもも含む)の学習について見ていく。さらに学習心理学の視点から子どもの行動及び心の発達についても考察する。
	到達目標	古典的条件づけ、オペラント条件づけを中心とした学習のメカニズムを理解し、ヒトの学習として説明できる。
授業計画	(1) 学習とは (2) 心理学史における学習心理学 (3) 学習心理学の流れ (4) 古典的条件づけ：パブロフの実験から (5) 古典的条件づけ：嫌悪条件づけ (6) 古典的条件づけ：古典的条件づけの諸問題 (7) オペラント条件づけ：オペラント条件づけの基礎 (8) オペラント条件づけ：部分強化と強化スケジュール (9) オペラント条件づけ：強化の理論 (10) オペラント条件づけ：応用行動分析 (11) 技能の学習 (12) 社会的学習 (13) 学習理論の応用：行動療法 (14) 学習と発達 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	何回かに一事前課題を出すのでできる範囲内で調べる
	事後学習	授業を聞いた上で事前課題の回答内容について答え合わせをしておく
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中資料を配付する。
	参考文献	J. E.メイザー『メイザーの学習心理学』二瓶社 1996 ISBN4-931199-43-7 佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0 『学習指導要領』
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学 I	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「こころの援助学」である臨床心理学の基礎理論について学ぶことを目的とする。心理療法の基本的な知識や技法、精神病理的的症状や発達障害について概説する。
	到達目標	精神病理的的症状や発達障害の基本的な知識について理解し、対応のための基本的な考え方が身につけられるようになる。
授業計画	(1) 臨床心理学とは・オリエンテーション (2) 様々な心理療法（フロイトの精神分析） (3) 様々な心理療法（行動療法） (4) 様々な心理療法（論理療法・認知行動療法） (5) 様々な心理療法（クライエント中心療法） (6) 様々な心理療法（ゲシュタルト療法） (7) 様々な心理療法（家族療法） (8) 精神障害① (9) 精神障害② (10) 精神障害③ (11) 精神障害④ (12) 知的障害 (13) 発達障害① (14) 発達障害② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付プリントやノートを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の基礎知識が身につき、精神病理的諸症状等への心理的対応が理解できたものは合格とする。
	方法	受講態度・コメントカード（40%）、試験（60%）によって総合的に判断する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会心理学 I	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会の中で生起する個々人の行動について研究する学問である。本講義では社会心理学の主たる研究領域について概観し、その学問的意義について解説する。
	到達目標	社会心理学で扱われる様々な研究領域・各種研究トピックについて学び、学問的特色を理解する。さらにこれらを通じて、社会心理学の基本的知識を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション 社会心理学とは何か (2) 社会心理学の研究方法及びその研究対象 (3) 社会的行動の基礎—個人レベルで捉えた社会行動 …①内的要因 (4) // …②社会的動機, 社会的促進・社会的手抜き (5) // …③他者理解, 自己開示 (6) 相互作用と集団過程—小集団レベルでの相互作用過程 …①態度変容 (7) // …②対人魅力 (8) // …③攻撃行動 (9) // …④援助行動 (10) // …⑤非言語的コミュニケーション (11) 社会と個人の相互作用—マクロレベルでの社会行動 …①群衆行動 (12) // …②集団とは何か (13) // …③マスコミと世論 (14) // …④流言と情報伝達プロセス (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、理解しておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する資料等でよく調べ補って置くこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	社会心理学全般に渡る基礎的知識とその理解を得ていることを合格の目安とする。
	方法	講義への出席や受講態度を重視する。筆記試験もしくはレポートを課す。 [授業への取り組み 50%/筆記試験(レポート) 50%]
備考	講義中、数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学 I	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育とよばれる事象の中から心理学に関連した問題を取り上げる。従来から心理学の主な関連領域としては発達、学習、適応、評価などが研究されてきたが、この教育心理学 I では発達と学習を中心に講義する。
	到達目標	1. 発達という側面が教育活動にどのような形で関わってくるのかその必然性やメカニズムについて理解し、説明できるようになること。 2. 学習にはいろんな種類やメカニズムが存在することや、それらが教育活動とどのように関連してくるのかについて理解し、説明できるようになること。
授業計画	(1) 発達と教育（遺伝と環境、成熟説と学習説） (2) 乳幼児における認知の特徴 (3) ピアジェの認知発達段階説（1） (4) ピアジェの認知発達段階説（2） (5) 言語発達と教育、乳幼児期の言語発達 (6) 学童期の読書と作文 (7) 社会性と社会的スキルの発達 (8) 道徳性と向社会性の発達 (9) 記憶のプロセス (10) 記憶と効果的な学習法 (11) 個人差に応じる指導（適性処遇交互作用） (12) 個人差に応じる指導（学習到達度の個人差） (13) 個人差に応じる指導（認知スタイルと興味の個人差） (14) 学習過程による授業の分類（1） (15) 学習過程による授業の分類（2）	
自学自習	事前学習	例次回の講義に関連したキーワードやトピックに関して予備知識を与え、調べさせておく ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	前回の授業の概略を振り返り、主要な概念の理解を再確認させる。
使用教材・参考文献	使用教材	北尾倫彦他著「コンパクト教育心理学」 北大路書房
	参考文献	その都度、適宜提示する。
成績評価の基準と方法	基準	1. 発達を考慮した教育活動の必要性が理解できていること。 2. 学習のタイプに応じた教育活動について、概略説明できるようになること。
	方法	1. 発達を考慮した教育活動の必要性が理解できていること。 2. 学習のタイプに応じた教育活動について、概略説明できるようになること。
備考	最終筆記試験（70点）、授業への参加度（30点）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	前半は、発達の要因としての遺伝と環境の影響について概説し、後半は具体的な子ども（障がい児を含む）の心身の発達を概観していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の要因としての遺伝と環境の影響についてデータから読み解ける</li> <li>・各期の子どもの心身の発達についてデータから読み解ける</li> </ul>
授業計画	(1) 発達とは (2) 遺伝と環境 (3) パーソナリティの遺伝①：人間を対象にした研究 (4) パーソナリティの遺伝②：動物を対象にした研究 (5) 初期経験の影響 (6) 初期経験としての親子関係 (7) ヒトの発達の特徴 (8) 発達の様相、胎生期と出生 (9) 新生児のできること (10) 発達段階説、各段階で子どもが学ぶこと (11) 行動発達：幼児期 (12) 行動発達：児童期 (13) 行動発達：青年期 (14) 発達障がいと特別支援教育 (15) 発達心理学の方法と問題点	
自学自習	事前学習	何回かに一回事前課題を出すのでできる範囲内で調べておくこと
	事後学習	授業を聞いた上で事前課題の回答内容について答え合わせをしておくこと
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。講義中資料を配付する。
	参考文献	矢野喜夫・落合正行『発達心理学への招待』サイエンス社 1991年 中谷勝哉『行動誌入門』ナカニシヤ出版 1997年 根ヶ山光一『発達行動学の視座』金子書房 2002年
成績評価の基準と方法	基準	上記到達目標に関わる期末試験において60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	産業組織心理学 I	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特にモチベーション、リーダーシップ、職場のコミュニケーションに関する理論について解説する。あわせて、組織やチームの一員として効果的に振る舞うための留意点について、体験学習を通して考察する。
	到達目標	組織の一員として円滑な人間関係を築き、業績を向上させることに関わる心理プロセス、行動の特色について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 産業組織心理学の特色と歴史 (2) ワーク・モチベーション① (欲求とモチベーション) (3) ワーク・モチベーション② (報酬とモチベーション) (4) ワーク・モチベーション③ (目標設定とモチベーション) (5) ワーク・モチベーション④ (コミットメント) (6) リーダーシップ① (リーダー行動の特色) (7) リーダーシップ② (状況に応じたリーダー行動) (8) リーダーシップ③ (フォロワーシップ) (9) リーダーシップ・トレーニング (10) パワーとポリティクス (職場における影響力の発生) (11) チームワーク (12) 葛藤解決トレーニング (13) 職場のコミュニケーション (報告・連絡・相談) (14) 職場のコミュニケーション (会議の技法) (15) ケースワーク	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくとう理解の助けになります。
	事後学習	しっかり復習すること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717
成績評価の基準と方法	基準	産業組織心理学の基礎理論、特にモチベーション、リーダーシップ、職場のコミュニケーションに関する理論について理解したものを合格とする。
	方法	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。(試験 100%)
備考	グループワークがあります。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	家族心理学	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	家族ライフサイクルの各段階における発達課題や、家族の抱える心理的問題と家族への心理臨床的援助について講義する。
	到達目標	家族ライフサイクルと家族の発達課題を学び、各段階で生じやすい心理的問題とその援助法を理解する。
授業計画	(1) 家族心理学とは何か (2) 家族の健康とは (3) 家族のライフサイクルと発達課題① (4) 家族のライフサイクルと発達課題② (5) 家族のライフサイクルと発達課題③ (6) 夫婦関係 (7) 親子関係—養育の場としての家族 (8) 児童虐待と家族 (9) 子どもの不登校と家族 (10) 子どもの家庭内暴力 (11) 夫婦の問題 (12) 家族理解に役立つ臨床理論 (13) 家族への心理臨床的援助 (14) 家族への心理臨床的アプローチの実際 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付プリントやノートを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	家族ライフサイクルと各段階における発達課題、および心理的問題について理解し、その援助法について考えることができたものは合格とする。
	方法	受講態度・コメントカード (40%)、試験 (60%) によって総合的に判断する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	学校臨床論	
担当者	◎神菌 紀幸 / 白井 祐浩 / 松田 君彦	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講義では、今日の学校教育における諸問題について考える上での基本的な理論や考え方を学び、様々な視点を持つ心理学的な知見をもとに、その克服の方途を考えていく。 また、生徒指導の理論及び方法について学ぶ。
	到達目標	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) I. 組織としての学校と学校教育 ① (3) I. 組織としての学校と学校教育 ② (4) I. 組織としての学校と学校教育 ③ (5) I. 組織としての学校と学校教育 ④ (6) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ① (7) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ② (8) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ③ (9) II. 現代の学校における教育臨床的諸課題 ④ (10) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ① (11) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ② (12) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ③ (13) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ④ (14) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ⑤ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義中に理解が不十分であった事柄については、関連する図書や資料等にあたり、補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	「学習指導要領」。その他必要に応じて、授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ることを合格の目安とする。
	方法	本講義は3名の教員によるオムニバス形式で行われ、最終評価は各教員による評価得点を合算したものによる。
備考	授業内容の実施順序は変更になる場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育哲学	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、「教育とは何か」という本質的について、様々な教育思想（教育観）を概観しながら考えていきます。また、哲学的解釈の視座に基づき、教育における諸課題について多面的に考察していきます。
	到達目標	<p>((1)現代教育に影響を与えてきた諸学説（教育思想の類型）について理解する。</p> <p>((2)教育思想（教育観）の解釈について理解を深める。</p> <p>((3)現代教育に関わる諸問題について、哲学的解釈の視座に基づき考えることができる。</p>
授業計画	<p>(1) I. 教育哲学の本質～教育哲学とは何か～</p> <p>(2) I. 教育哲学の本質 ①教育哲学の成立と特質</p> <p>(3) I. 教育哲学の本質 ②教育の哲学的解釈</p> <p>(4) I. 教育哲学の本質 ③教育の哲学的解釈に基づく「LDT (Learning Through Discussion)」</p> <p>(5) II. 教育思想の諸類型 1) 「教」を重視する教育観 ①クリーク</p> <p>(6) II. 教育思想の諸類型 1) 「教」を重視する教育観 ②デュルケーム</p> <p>(7) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ③ルソー</p> <p>(8) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ④ペスタロッチ</p> <p>(9) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ⑤フレーベル</p> <p>(10) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ⑥モンテッソーリ</p> <p>(11) II. 教育思想の諸類型 2) 「育」を重視する教育観 ⑦デューイ</p> <p>(12) II. 教育思想の諸類型 3) 「教」と「育」を対比した「マイクロ・ダイバート」</p> <p>(13) III. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～①教育的価値への追及</p> <p>(14) III. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～②教育的関係への追及</p> <p>(15) IV. 教育哲学の課題と展望</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	・配布資料や提示した参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関川悦雄 他著 『教育思想のルーツを求めて』 啓明出版 2001年</li> <li>・沼野和夫 著 『教育の原理』 学文社 2002年</li> <li>・文部科学省編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年</li> <li>・文部科学省編著『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年</li> <li>・文部科学省編著『生徒指導提要』 教育図書 2010年</li> </ul>
成績評価の基準と方法	基準	・教育哲学に関わる基礎的知識を習得し、教育の哲学的知見に基づいて、現代の学校教育に対し自分の考えを述べることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育史	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。
	到達目標	西洋の近代教育思想史を学ぶことで、今日の教育に関する基本的な考え方の源流について理解できるようになる。 近世及び近現代の日本の教育史を学ぶことで、日本の教育の形成過程を理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 西洋の近代教育思想 (1) —ルソー, コンドルセ— (3) 西洋の近代教育思想 (2) —ペスタロッチ, ヘルバルト— (4) 西洋の近代教育思想 (3) —フレーベル, オーエン— (5) 西洋の近代教育思想 (4) —デューイ, モンテッソーリ— (6) 近世以前の教育史 (7) 明治時代の教育 (1) —近代教育の開始— (8) 明治時代の教育 (2) —近代教育制度の確立— (9) 大正時代の教育と大正新教育運動 (10) 昭和戦前期の教育と戦時下の教育 (11) 戦後の教育 (1) —戦後教育改革— (12) 戦後の教育 (2) —1950年代以降の教育— (13) 授業のまとめ 1 (14) 授業のまとめ 2 (15) 授業のまとめ 3	
自学自習	事前学習	参考文献を読んでおく。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に教材プリントを配布する。
	参考文献	勝山吉章編著『西洋の教育の歴史を知る—子どもと教師と学校を見つめて』あいり出版 2011年 ISBN9784901903479 ほか
成績評価の基準と方法	基準	今日の教育に関する基本的な考え方の源流や、日本の教育の形成過程について理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができる。
	方法	授業参加度 55点 定期試験 45点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学Ⅱ	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育心理学における各領域についての基礎的な知識及び進路指導に関する知識を学ぶ。また、その知識を教育現場にどのように応用していくかについても理解する。
	到達目標	教育心理学における基礎的な知識及び進路指導に関する知識について学び、その知識を教育現場で応用できる形で身につける。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 個人差に応じる指導 1 (3) 個人差に応じる指導 2 (4) 授業のタイプと技術 1 (5) 授業のタイプと技術 2 (6) 学級理解と指導 1 (7) 学級理解と指導 2 (8) 不適応児の理解と指導 1 (9) 不適応児の理解と指導 2 (10) 心理検査と心理療法 1 (11) 心理検査と心理療法 2 (12) 教育評価の考え方と実際 1 (13) 教育評価の考え方と実際 2 (14) 進路指導の理論と方法 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	教科書の各テーマについて事前に読んでおくこと。
	事後学習	教科書やプリントを読み直し、内容を確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	精選 コンパクト教育心理学 教師になる人のために
	参考文献	学習指導要領。その他の文献は講義中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教育心理学の各テーマについて理解をするとともに、自分なりの考えを述べることができるものは合格とする。
	方法	授業態度 30 点、試験 70 点によって評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	医学一般	
担当者	野添 新一 / NOZOE, Shin'ichi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	医学・福祉領域の仕事に従事する予定の者、あるいは自分の健康増進・維持に努めたい者にとって必要な基本的医学知識を習得できるような再学習を目指す。文明化・情報化・高齢化などによって変化した疾患についての理解を深め基礎知識を学習できることを目的とする。福祉、ハビリテーションなど新しい分野についての知識習得を目指す。
	到達目標	人体の構造・機能、成長・発達、精神・身体の変化について再学習する。身体機能と身体構造についてその働きを理解する、ストレスの精神・身体に及ぼす影響について理解を深める。国際生活機能分類、健康観についての知識を得る。現代社会特有の疾病の予防、生活習慣との関連について理解を深める。高齢化に伴って増加する疾患、発達障害についての最近の知見について理解する。
授業計画	(1) 人体の構造・機能、各期間と機能 (2) 成長発達と老化 (3) 精神と身体の変化 (4) 身体機能と身体構造の概要 (5) 各器官の構造と機能 (6) ストレスと健康・疾患 (7) 国際生活機能分類（ICF）の基礎的考え方と概要 (8) 健康のとらえ方 (9) 癌 (10)生活習慣病 (11)高齢者と疾患 (12)感染症 (13)精神神経疾患 (14)発達障害 (15)疾病と障害の概要	
自学自習	事前学習	・教科書を事前予習しておくことが望ましい。
	事後学習	・レポートを数回実施する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	医学一般 ヘルス出版(2200円)
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえ、学習態度、出席日数、テストの結果を総合して決定する。
	方法	試験（80%）、受講態度（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	精神保健	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの健康を中心として、生涯発達の視点からライフサイクルにおける精神保健について学ぶ</li> <li>・精神保健の意義、特に子どものこころの健康の問題について理解する</li> </ul>
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床領域や社会生活領域での心理学・臨床心理学の応用として、具体的にどのような臨床領域や日常的な社会生活において心理学・臨床心理学が応用されているかを理論的に説明できる。</li> <li>・心理臨床での対人援助を行うにあたって必要な倫理観や人間観を、援助者・被援助者双方の心情や立場を踏まえ、説明できる。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション</li> <li>(2) 精神保健とは</li> <li>(3) 成長・発達と精神保健</li> <li>(4) 心の健康のとらえかた</li> <li>(5) 親子・家族関係と精神保健</li> <li>(6) 文化・教育・社会環境と精神保健</li> <li>(7) 乳幼児の精神発達の特徴</li> <li>(8) 乳児期の精神保健</li> <li>(9) 幼児期の精神保健</li> <li>(10) 幼児期における精神発達の問題と支援</li> <li>(11) 児童期の精神保健</li> <li>(12) 児童期における精神発達の問題と支援</li> <li>(13) 青年期の精神保健</li> <li>(14) 成人期、老年期の精神保健</li> <li>(15) 総まとめ</li> </ol>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用教材の復習をすること</li> <li>・授業ごとに小レポートを課す</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	宮本信也・小野里美帆編著『シードブック 保育にいかす精神保健』建帛社などを参考に、適宜資料を配布する
	参考文献	宮本信也・小野里美帆編著 『よくわかる子どもの精神保健』ミネルヴァ書房
成績評価の基準と方法	基準	・ライフサイクルにおける精神保健とこころの健康について理解した者を合格とする。
	方法	・小レポート・受講態度：30%、試験 70%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人格心理学	
担当者	石井 利文 / ISHII, Toshifumi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	広く社会一般において性格や人格という用語が頻用されているが、そもそも性格や人格とはいったい何なのであろうか。その人の性格のために他者や社会が悩むことがあり、また自分の性格のためにその人自身が悩む場合もある。本講義ではこのような諸相を有する性格の定義や問題行動との関係等に関して学ぶ。なお、人格心理学やパーソナリティ心理学、性格心理学等において扱われる内容はほぼ同じものである。
	到達目標	性格や人格に関する基礎的な知識が得られる。
授業計画	(1) 性格の定義 (2) 性格の諸理論 ① (3) 性格の諸理論 ② (4) 性格理解の方法 (5) 性格の類型論 ① (6) 性格の類型論 ② (7) 性格の発達 (8) 家族関係と性格 (9) 人間関係と性格 (10) コミュニケーションに現れる性格 (11) 適性とは何か (12) 問題行動と性格 (13) 性格の正常・異常 ① (14) 性格の正常・異常 ② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待[改訂版]—自分を知り他者を理解するために—新心理学ライブラリ=9』サイエンス社 2003年 ISBN 978-4-7819-1044-4
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、性格や人格に関する基礎的な知識を得たものを合格とする。
	方法	受講態度（30点）と期末レポート（70点）で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学Ⅱ	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	臨床心理学の考え方からみた不登校や引きこもり、児童虐待、依存などの問題への理解や対応について説明する。また、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論および方法についても説明する。
	到達目標	臨床心理学の基礎理論について学ぶことで、問題行動が生じる基本的メカニズムを理解し、対応のための基本的な考え方が身につけられるようになる。
授業計画	(1) 臨床心理学の実践領域 (2) 臨床心理学と臨床心理士 (3) 臨床心理学の基礎理論 (4) 医療領域（1）医療領域における臨床心理士 (5) 医療領域（2）精神疾患の歴史と現在 (6) 医療領域（3）医療現場での心理検査 (7) 医療領域（4）医療現場での心理療法 (8) 福祉領域（1）福祉領域における臨床心理士 (9) 福祉領域（2）児童相談所・児童養護施設 (10)福祉領域（3）児童虐待の現状 (11)福祉領域（4）その他の福祉領域 (12)教育領域（1）スクールカウンセラー (13)教育領域（2）教育領域における問題（不登校・いじめ） (14)教育領域（3）教育領域における問題（非行・発達の問題） (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義後半に小レポートを課す。 ・講義の内容を自分なりにまとめる
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を適宜用いる
	参考文献	下山晴彦編著「よくわかる臨床心理学（改訂新版）」 ミネルヴァ書房 2009年 ISBN:4623054357
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の基礎知識が身につき、問題行動への心理的対応が理解できたものは合格とする。
	方法	評価の方法は試験 70%、小レポート 30%で行う。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	社会保障論	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、および医療保険法について裁判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、および医療保険法の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 公的扶助法 1 (2) 公的扶助法 2 (3) 公的扶助法 3 (1)～(2)の小テスト (4) 社会福祉法 1 (児童福祉法) (5) 社会福祉法 2 (児童福祉法) (6) 社会福祉法 3 (障害者福祉法) (3)～(5)の小テスト (7) 社会福祉法 4 (障害者福祉法、高齢者福祉法) (8) 介護保険法 (9) 社会福祉法 5 (6)～(8)の小テスト (10) 社会福祉法 6 (11) 医療保険法 1 (12) 医療保険法 2 (9)～(11)の小テスト (13) 医療保険法 3 (14) 医療保険法 4 (15) 医療保険法 5 (12)～(14)の小テスト	
自学自習	事前学習	・参考文献の該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の最初の 15 分間、小テストを行います (2～3 回おきに実施)。 ・小テストに向けてプリント等を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを使用します。
	参考文献	加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法 (第 6 版)』有斐閣 2015 年 ISBN 978-4-641-22054-6 ※購入の必要はありません。
成績評価の基準と方法	基準	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、および医療保険法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 ※出席が全受講時数の 3 分の 2 に満たない者には単位を付与しない(履修規程 12 条)。
	方法	平常点 (小テスト 20 点×5 回) 100 点で評価します。 ※追試験・再試験は実施しません。平常点 (小テスト) のみで成績評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	障害者福祉論	
担当者	清原 浩 / KIYOHARA, Hiroshi	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	障害者が置かれている現実、夢、希望をある福祉施設とそこに通う障害者を通して明らかにします。また、福祉施設や地域福祉でのサポートのあり方を明らかにします。そのことを通して、受講生自身の生き方も振り返ることができるようにします。臨床福祉論といった角度からの授業になります。
	到達目標	「障害者福祉の現実がわかる」 「障害者の方々の夢、希望がわかる」 「障害者へのサポートのあり方がわかる」 「障害者の生き方がわかって、自分の生き方にも示唆が与えられる」
授業計画	(1) 「私と障害者」/VTR「自立へはばたく」 (2) 「ある福祉法人の理念」/VTR「響きあう父と子」 (3) 「ある福祉法人のあゆみ」/VTR「青空が見たい」 (4) 「ある福祉法人のめざすもの」/VTR「ゆきちゃん、ひろちゃん、がんばれ、がんばれ」 (5) 「夢のまち」構想とは/VTR「13年目のゴール」 (6) 「自治とは」/VTR「姉と兄に見守られて」 (7) 「自立とは」/VTR「新しい自分を探して」 (8) 「福祉文化とは」/VTR「ママ、太陽が見たい(1)」 (9) 「発達とは」/VTR「ママ、太陽が見たい(2)」 (10) 「労働とは」/VTR「はまなすの家」 (11) 「生活とは」/VTR「海君が笑った」 (12) 「サービスとは」/VTR「奇形ザルは警告する」 (13) 「市民運動と福祉」/VTR「二人の島旅」 (14) 「障害児療育の輪を広げる運動」/VTR「自立に向かうアメリカの障害者」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書の講義された部分の再読、再確認をすること。 ・視聴したビデオの内容の再度の想起、確認をすること。
使用教材・参考文献	使用教材	清原浩編著「障害者福祉論」(2014、子育て・福祉研究所出版、300円)、授業開始時に販売
	参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	障害者福祉のあり方、障害者へのサポートのあり方を理解できた場合を合格とします。
	方法	筆記試験。(終了試験80%、受講態度20%)
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学Ⅱ	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	人間の誕生前後から死に至るまでの生涯を対象とした、発達に関する基礎的理論や捉え方を紹介する。また、さまざまな時期における対人関係が、生涯を通しての心の発達にどのような影響を及ぼすかを考える。
	到達目標	・人間の心理的発達に関する基本的な概念や理論について理解する。 ・人間は『関係的存在』であり、関係の質が発達を左右することを理解する。
授業計画	(1) 発達心理学とは：発達の捉え方（遺伝か環境か、…） (2) 発達研究法：横断的研究と縦断的研究、他 (3) 発達の生物学的基礎：ポルトマンの研究 (4) ヒトにおける親子関係の特徴 (5) 胎児期・乳児期の発達：身近な人との出会い (6) 幼児期の人間関係：親との関係、仲間関係、…… (7) 乳幼児期の心理臨床的問題：愛着障害、…… (8) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に）① (9) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に）② (10) 児童期の発達：仲間関係の発達過程（児童期の出会いと別れ） (11) 青年期の発達：自分探しの旅、青年期の友だちとの出会いと別れ (12) 児童期・青年期の心理臨床的問題：ギャング・エイジの喪失、… (13) 成人期の発達：大人としての社会的責任 (14) 中年期・老年期の発達と問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、授業の初めに前回の授業内容の復習を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	浜崎隆司・田村隆宏編著『やさしく学ぶ発達心理学』、ナカニシヤ出版、2011年
	参考文献	授業中に、適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標が達成されたものを合格とする。
	方法	試験(70%)、授業への参加度(30%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉心理臨床学	
担当者	中村 年男 / TOSHIO, Nakamura	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	援助の対象になりやすい、クライアント（利用者）の心身の特徴について説明する。その上で、それぞれが抱えやすい生活問題を取り上げ、解決に向けたクライアントとの関わり方や社会資源の活用方法について説明する。
	到達目標	①高齢者等の心身の特徴を理解し説明できる。 ②生活問題について理解し、問題解決に向けた支援方法を導き出せる。
授業計画	(1) 序論（福祉心理臨床学について） (2) 高齢者の心身の理解と生活支援① (3) 高齢者の心身の理解と生活支援② (4) 高齢者の心身の理解と生活支援③ (5) 高齢者の心身の理解と生活支援④ (6) 高齢者の心身の理解と生活支援⑤ (7) 高齢者の心身の理解と生活支援⑥ (8) 振り返り① (9) 児童の心身の理解と生活支援① (10) 児童の心身の理解と生活支援② (11) 児童の心身の理解と生活支援③ (12) 振り返り② (13) 障害児・者の心身の理解と生活支援① (14) 障害児・者の心身の理解と生活支援② (15) 振り返り③	
自学自習	事前学習	事前に配布する資料を読んでおくこと
	事後学習	理解できなかった内容は、自らが調べたり教員に質問すること。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。適宜、必要な資料を配布する。
	参考文献	なし。
成績評価の基準と方法	基準	生活問題の解決を図る社会資源を理解し、問題解決に向けた支援方法を述べることができた者を合格とする。
	方法	受講態度（20%）、チェックシート（15%）、振り返り（15%）期末試験（50%）などにより総合的に評価する。2/3以上の出席を前提とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	高齢者心理学	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	人間は生涯にわたって発達し続ける。ライフサイクルの最終ステージである老年期にも発達課題がある。講義では、知的機能、自我の発達における加齢の影響について概観し、高齢者の社会的・心理的適応とストレスの問題を考える。グループワークやディスカッションを行い、積極的・自主的な学習を励行する。
	到達目標	高齢者の心理について、生涯発達心理学的視点、および社会的・心理的適応の視点など、多角的な見方ができるようになる。自分自身のライフサイクルについても関係づけられるようになる。
授業計画	(1) 人生について考える①：映画の視聴と個人考察 (2) 人生について考える②：映画の視聴と個人考察 (3) 人生について考える③：グループディスカッション (4) 人生について考える④：発表と全体ディスカッション (5) 生涯発達心理学 (6) 高齢者の身体 (7) 高齢者のこころ (8) 高齢者の知的機能 (9) 認知症 (10)プロダクティブ・エイジング (11)100 寿者の特徴 (12)回想法①：個人回想法の理解と体験 (13)回想法②：グループ回想法の理解と体験 (14)メモリーブックの作り方 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	数回、発表とレポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	飯干紀代子：今日から実践－認知症の人とのコミュニケーション 感情と行動を理解するためのアプローチ. 2012, 中央法規
成績評価の基準と方法	基準	高齢者の心身の特徴を理解し、①対応方法を具体的に述べること、②自分自身のライフサイクルに関連付けて考察すること、の2点ができれば合格とする
	方法	最終レポート 50%、小レポート 30%、受講態度 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	産業組織心理学Ⅱ	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特に組織における人事、安全衛生、また、消費者の心理に関する理論について解説する。あわせて、本講で解説された理論を体験的に理解するための実習に取り組む。
	到達目標	個人が能動的にキャリアを発達させ、職場に適応することに関わる心理プロセス、行動の特色、そして組織に顧客として関わる消費者の心理について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 人事採用（採用の手続き） (2) 人事評価（上司から見た部下・部下から見た上司） (3) 人材育成（人を育てる組織の仕組み） (4) キャリア形成 (5) 職場の安全衛生①（職場のストレス） (6) 職場の安全衛生②（職場のストレス） (7) 職場の安全衛生③（職場の反社会的行動） (8) 職場の安全衛生④（職場における事故防止） (9) リスクコミュニケーション・トレーニング (10) 消費者行動①（購買意思決定） (11) 消費者行動②（販売促進活動） (12) 消費者行動③（クレーム対応） (13) 消費者行動④（広告の技法） (14) 広告批評 (15) 広告作成	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことで理解の助けになります。
	事後学習	しっかりと復習すること
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717
成績評価の基準と方法	基準	産業組織心理学の基礎理論、特に組織における人事、安全衛生、また消費者の心理に関する理論について理解したものを合格とする。
	方法	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。（試験 100%）
備考	グループワークがあります。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会心理学Ⅱ	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、人間の社会的行動に関する心理学的法則を明らかにしようとする学問である。本講義は、社会心理学Ⅰを踏まえ、社会心理学の各研究領域での基本的事項についてさらに専門的に解説する。
	到達目標	社会心理学の基本的事項を学び、理解することで、人の社会的行動に対する社会心理学的視座を得る。 社会心理学における基本的事項やキーワードについて、学問的背景についての理解を深めながら、論述できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション：社会心理学の特色 (2) 社会心理学の主たる研究方法と研究対象 (3) 自己（セルフ） 自己概念，自己評価，複雑性と適応 (4) 自己呈示 対人コミュニケーション，動機づけ (5) 対人葛藤 葛藤解決の方略 (6) ジェンダー 性役割の社会化 (7) 態度変容 社会的態度，認知的一貫性，説得的コミュニケーション (8) 対人認知 印象形成，対人記憶，プロセスモデル，個人差 (9) 社会的認知 感情と社会的認知，ステレオタイプの認知 (10) 社会的推論 帰属理論，推論のエラーとバイアス (11) 社会的公正 (12) 対人魅力 関係の成立と維持と崩壊 (13) グループ・ダイナミクス 他者存在の影響，社会的ジレンマ (14) 文化と人間 個人主義と集団主義，異文化適応 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について，関連する資料や書籍に目を通し，理解しておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する資料等で各自調べ，補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	社会心理学的観点から種々の社会的行動について，論述できることを合格の目安とする。
	方法	筆記試験もしくはレポートを課す。 [授業への取り組み 50%/筆記試験（レポート） 50%]
備考	講義中，数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	健康心理学（メンタルヘルス）	
担当者	小林 純子 / KOBAYASHI, Junko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	心身の健康を目指すために、ストレスの仕組みや心の健康に関する問題、精神的疾患の正しい知識を紹介する。また、ビデオ学習や実習を通して、心の健康を保つための方法を体験的に学ぶ。
	到達目標	①心が心身相互の健康に及ぼす影響について学び、心の健康を保つための方法について理解する。 ②学んだ知識を日常生活でどのように応用していくことが可能か、考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心の健康と、世代ごとの健康リスク (3) ストレスの心理学 (4) ストレスマネジメント (5) 現代の子どもと健康 (6) 児童虐待 (7) 精神疾患① 神経症、心身症、人格障害 (8) 精神疾患② 気分障害、統合失調症 (9) 発達障害 (10)依存症 (11)喪失体験の心理的過程と、心のケア (12)べてるの家 (13)精神医学と心理療法 (14)相談機関とソーシャルサポート (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	取り上げたテーマ・内容について、授業中に配布するプリントなどで復習し、適宜紹介する文献等で理解を深めること。学んだ知識に関する疑問などを整理し、次回の授業で感想シートに記入すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は、特に指定しない。授業時にプリントを配布する。
	参考文献	島井哲志・長田久雄・小玉正博編『健康心理学・入門 健康なところ・身体・社会づくり』2009年 有斐閣アルマ このほか、適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	メンタルヘルスについての基本的な知識を習得し、自分の生活への応用を考えることができたものを合格とする。
	方法	テスト（80%）、レポート（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	社会調査法	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として、行政・政策・政治・経済・社会・文化や研究など様々な分野で重要性を持つ社会調査について、それが科学的で説得力をもつために必要な基本的事項を学ぶ。受講生は、「とりあえず調査してみよう」の姿勢が危険であることを痛感するだろう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。</li> <li>・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。</li> <li>・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。</li> <li>・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。</li> </ul>
授業計画	(1) 社会調査—社会をとらえるためのツール／調査でわかること／個人の偶然と社会の確からしさ (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査／調査技術の高度化・調査方法の多様化 (3) 社会調査の実例—官庁統計・国勢調査／世論調査／マーケティング・リサーチ (4) 社会調査の種類①—量的調査（統計的調査）／数量で社会を見ること・見えること (5) 社会調査の種類①—量的調査の具体的調査方法—全数調査・標本調査／母集団・標本 (6) 社会調査の種類①—量的調査の具体的調査方法—無作為抽出／様々なデータ収集方法 (7) 社会調査の種類②—質的調査（事例調査・記述的調査）／量ではなく質で社会を見ること・見えること (8) 社会調査の種類②—質的調査の実例 (9) 量的調査と質的調査の比較—それぞれの技法としての有効性と限界、相互補完の関係 (10) 科学的な調査の条件①—調査の企画・設計の科学／母集団・標本／全数調査・標本調査 (11) 科学的な調査の条件②—調査結果と現実とのズレ（誤差）の科学—標本誤差と非標本誤差— (12) 科学的な調査の条件③—調査票作成の科学 (13) 科学的な調査の条件④—調査結果の評価の科学 (14) 調査者に求められる倫理—なぜ調査するのか？／してはいけない調査／無駄な調査 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	毎回、次回の授業のキーワードや専門用語を提示するので、参考文献・辞書・事典等で事前に調べておくこと。
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。
	参考文献	嶋崎尚子『社会をとらえるためのルール—社会調査入門』学文社, 2008年. ISBN9784762018336 大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房, 2013年. ISBN9784623066544 宮内泰介『自分で調べる技術—市民のための調査入門』岩波書店, 2004年. 谷富夫, 芦田徹郎編『よくわかる質的社会調査法』ミネルヴァ書房, 2009年. 佐藤郁哉『フィールドワークの技法：問を育てる・仮説をきたえる』新曜社, 2002年. 山田一成『聞き方の技術：リサ—
成績評価の基準と方法	基準	科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。
	方法	レポート等の課題遂行 15%・定期筆記試験 85%
備考	社会調査の入門科目であるので、この科目の受講で実践的な調査スキルを習得することはできない。しかし、受講生は社会に氾濫する様々な安易な調査を批判的に観察してほしい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル


科目名	心理臨床的援助演習	
担当者	◎山喜 高秀 / 大島 英世 / 小林 純子 / 野浪 俊子 / 溝口 和代	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	集中講義	
科目概要	授業内容	心理臨床的援助は、教育、医療、福祉など、様々な現場でその必要性が年々高まってきている。特に近年は、これまで広く知られている心理療法に加え、音楽療法をはじめとした芸術療法や動物介在療法、さらにはピア・ヘルピングなど応用的心理援助技法が注目されてきている。本授業では、心理臨床の現場で実際行われ、その効果も実証されている、こういった諸技法について、体験的に学習する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピアヘルパーについて、その理論とスキルを体験的に学ぶ。</li> <li>・ 動物介在療法（アニマルセラピー）について、その理論とスキルを体験的に学ぶ。</li> <li>・ 音楽療法について、その理論とスキルを体験的に学ぶ。</li> </ul>
授業計画	(1) ピアヘルパーのためのカウンセリング概論 (2) 構成的エンカウンター (3) カウンセリング理論 (4) カウンセリングの言語的技法とロールプレイ (5) カウンセリングの非言語的技法とロールプレイ (6) 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 (7) 動物介在療法（アニマルセラピー）の理論 ① (8) 動物介在療法（アニマルセラピー）の理論 ② (9) 動物介在療法（アニマルセラピー）の体験的学習 ① (10)動物介在療法（アニマルセラピー）の体験的学習 ② (11)音楽療法の理論 ① (12)音楽療法の理論 ② (13)音楽療法の体験的学習 ① (14)音楽療法の体験的学習 ② (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を今後の学生生活や進路選択に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	ピアヘルパーハンドブック 日本教育カウンセラー協会 図書文化他、随時配布する。
	参考文献	随時紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	心理臨床的援助に関して、講義の到達目標の3項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	哲学概論	
担当者	近藤 和敬 / KONDO, Kazunori	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代とはなにか。このことを理解するうえでは、西洋哲学についての理解を欠くことができない。本授業では、「西洋＝近代」とは何であり、それにたいして自分たちがどのように位置づけられうるのかということを理解するために、古代から現代にいたる哲学史の概要を学びながら、考えていく。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋近代についての理解を深める。</li> <li>2. 哲学史と近現代社会の関係について理解する。</li> <li>3. 現代哲学を理解するうえで必要な基本的知識を獲得する。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス 現代社会と哲学</li> <li>(2) 哲学の起源と学問の歴史、ソクラテス以前の哲学者たち</li> <li>(3) 理性と絶対性、プラトンとアリストテレス</li> <li>(4) キリスト教の歴史と哲学のかかわり、プロティノス、アウグスティヌス</li> <li>(5) 哲学と神学の乖離、デカルト、スピノザ</li> <li>(6) 近代科学の誕生とデカルトの哲学革命、ライプニッツ、ニュートン</li> <li>(7) 経験と心の問題、ロック、ヒューム、ルソー、コンディヤック</li> <li>(8) 超越論的観念論、カント</li> <li>(9) 法と道徳の問題、カント</li> <li>(10) 名誉革命、米独立戦争、仏革命、産業市民社会と政治、サン＝シモン、マルクス（ここまでの内容についての小テストあり）</li> <li>(11) 人類の進歩と歴史、帝国主義と植民地、コント、ヘーゲル、ダーウィン</li> <li>(12) 近代の終焉にむけて 絶対精神から実存へ、ニーチェ、コジエーヴ</li> <li>(13) 二つの世界大戦、近代批判、工場産業から情報産業へ、レヴィ＝ストロース、ボードリヤール</li> <li>(14) 現代の診断、自然主義のほうへ、フーコー、ドゥルーズ、ガタリ</li> <li>(15) まとめの小テスト</li> </ol>	
自学自習	事前学習	・授業でもちいるスライドの PDF を授業の前後に読んで予習と復習をすること。
	事後学習	・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中のスライドの PDF
	参考文献	貫成人『哲学マップ』筑摩書房、2004年。 伊藤周史・齋藤直樹・菅原潤編『21世紀の哲学史——明日をひらく知のメッセージ』昭和堂、2011年。
成績評価の基準と方法	基準	講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがあります。
	方法	途中の小テスト（40％）とまとめの小テスト（60％）で評価する。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	倫理学概論	
担当者	柴田 健志 / SHIBATA, Kenji	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「正義」を主題にして、倫理学上の重要問題を検討します。
	到達目標	功利主義の基本的な考え方を理解する。 自由至上主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 アリストテレス倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。
授業計画	(1) DO THE RIGHT THING(テキスト:第1章) (2) 功利主義1(テキスト:第2章) (3) 功利主義2(テキスト:第2章) (4) 自由至上主義(テキスト:第3章) (5) 経済と道徳(テキスト:第4章) (6) カントの倫理学1(テキスト:第5章) (7) カントの倫理学2(テキスト:第5章) (8) 平等とは何か1(テキスト:第6章) (9) 平等とは何か2(テキスト:第6章) (10)アファーマティヴ・アクション(テキスト:第7章) (11)アリストテレスの倫理学1(テキスト:第8章) (12)アリストテレスの倫理学2(テキスト:第8章) (13)個人と共同体(テキスト:第9章) (14)政治と善(テキスト:第10章) (15)まとめ	
自学自習	事前学習	テキストの該当箇所を通読してください。
	事後学習	問題点を明確にしてテキストを再読してください。
使用教材・参考文献	使用教材	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ文庫 2011年 ISBN: 9784150503765
	参考文献	授業中に適宜紹介
成績評価の基準と方法	基準	講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。
	方法	期末試験(80%) 出席態度(20%)
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会学概論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、対人間の相互作用、個人と社会・個人と集団の関係、社会規範・秩序など社会を形づくる要素を探る学問である。本科目では、人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会学的なものを見方を取り上げ、習得してもらうことを目的とする。
	到達目標	・具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。 ・「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。 ・前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。
授業計画	(1) 社会学とはどのような学問か (2) 社会学の人間観 (3) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:自己意識の成立と社会化 (4) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:地位と役割 (5) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:演技という戦略 (6) 私たちはいかにして「社会」と馴染むのか:組織と集団 (7) 社会を捉える視点:様々な社会学理論(1) (8) 社会を捉える視点:様々な社会学理論(2) (9) 学説・理論編のまとめ (10)現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(1) (11)現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(2) (12)現代日本の姿 人間関係の変容(1) (13)現代日本の姿 人間関係の変容(2) (14)現代日本の姿 人間関係の変容(3) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodle にて随時復習課題を提示する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	奥村 隆、『社会学の歴史 I—社会という謎の系譜』2014年、有斐閣 (ISBN978-4641220393)。 那須 寿(編)『クロニクル社会学—人と理論の魅力を語る』1997年、有斐閣 (ISBN978-4641120419)。
成績評価の基準と方法	基準	社会学が目指す、自明性への問いかけおよび社会と自分の経験との橋渡しがある程度達成していることを最低の合格基準とする。
	方法	定期試験 60%、Moodle 課題 40%。
備考	Moodle 提出率が低い(6割未満)の学生は評価対象から外すこともある。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	法学概論	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	法とは何か、法の学び方、暮らしと法の関係など、法学の基礎となる事項を扱う。「教職課程」における「教科に関する科目」であることに留意した授業内容とする。
	到達目標	法学の基本的な用語を学び、法的な見方・考え方について理解する。 日常生活と法の関係について学び、簡単に説明できるようにする。
授業計画	(1) この講義の概要 (2) 法と法学 (3) 国家と法（憲法の基礎） (4) 国際社会と法（国際法の基礎） (5) 裁判と法（司法制度の基礎） (6) 家族と法 (7) 教育と法 (8) 犯罪と法 (9) 労働と法 (10) 財産と法（その1） (11) 財産と法（その2） (12) 社会福祉・社会保障と法 (13) 医療・看護と法 (14) 知的財産と法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします。詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	使用教材	授業時間に説明します。
	参考文献	授業時間に説明します。 なお教職課程履修者は、「中学校学習指導要領（社会・公民的分野）」または「高等学校学習指導要領（公民）」を読んでおくこと。
成績評価の基準と方法	基準	法学の基本的な用語の意味を理解していると認められる場合及び日常生活と法の関係について説明できると認められる場合に合格とする。
	方法	試験、提出物等により評価する。詳細は、授業時間において説明する。
備考	中学校社会科・高等学校公民の教員免許状取得希望者は、「教科に関する科目」の選択必修科目になっているので、注意すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	政治学概論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、自らが今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (西洋政治思想史について) (3) 近代の政治思想② (マキャベリ『君主論』) (4) 近代の政治思想③ (ボダンの主権論) (5) 近代の政治思想④ (社会契約論について) (6) 近代の政治思想⑤ (ホブズ『リバイアサン』) (7) 近代の政治思想⑥ (ロック『統治二論』) (8) 近代の政治思想⑦ (ルソー『社会契約論』) (9) 近代の政治思想⑧ (ベンサムとミル) (10) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (11) 現代の政治学② (メリアムとシカゴ学派) (12) 現代の政治学③ (ラズウェルほか) (13) 現代の政治学④ (政治システム論) (14) 現代の政治学⑤ (今日の政治理論) (15) 結論	
自学自習	事前学習	教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	使用教材	初回の講義で指示します。
	参考文献	佐々木毅、鷲見誠一、杉田敦著『西洋政治思想史』北樹出版、1995年 福田歓一著『政治学史』東京大学出版会、1985年 中谷猛、足立幸男著『概説 西洋政治思想史』ミネルヴァ書房、1994年 福田歓一著『近代の政治思想』岩波新書、1970年 宇野重規著『西洋政治思想史』有斐閣、2013年 小笠原弘親、小野紀明、藤原保信著『政治思想史』有斐閣、1987年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 久米郁夫ほか著『政治学』
成績評価の基準と方法	基準	講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書やインターネットの丸写しなど不誠実な答案は、評価の対象外となり、単位は認定されません。
	方法	受講人数に応じて、試験または期末レポートにより評価します。初回の講義で指示します。
備考	講義中に私語をする学生の受講は、認めません。講義担当者から注意を2回以上受けた場合、単位は認定されません。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル




科目名	教育社会学	
担当者	江阪 正己 / ESAKA, Masaki	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「教育社会学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	子どもが社会的一人前になる基本的しくみや問題状況について考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を&lt;社会化&gt;の視点から理解する。</li> <li>・&lt;社会化&gt;にかかわる様々な社会集団の役割について理解する。</li> <li>・子どもの発達の状況を学校・家庭・地域と関連づけて把握する。</li> <li>・子どもの問題行動の社会的性格とそれへの対応の基本を把握する。</li> </ul>
授業計画	(1) はじめに (2) 子どもの発達と社会化 (3) 家族集団と子どもの社会化 (4) 仲間集団と子どもの社会化 (5) 近隣集団と子どもの社会化 (6) 学校集団と子どもの社会化 (7) 中間まとめ (8) 少子化と子育て支援 (9) 学歴社会の変貌 (10) マス・コミュニケーションと社会化環境 (11) ニューメディアと子ども (12) 非行の現在 (13) 児童虐待 (14) 不登校・ひきこもり (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に、毎回、小コメントの提出を課す。</li> <li>・授業計画の適当な節目に、テーマを与えた小レポートを課す。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	住田・高島編著『子どもの発達社会学 教育社会学入門』北樹出版 2011年 ISBN9784779302602
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久富/長谷川編『教育社会学』学文社 2008年 ISBN9784762016554</li> <li>・岩永/稲垣『新版教育社会学』放送大学教育振興会 2007年 ISBN9784595307010</li> <li>・A.H. ハルゼー他編、広田他編訳『グローバル化・社会変動と教育 1』東京大学出版会 2012年 ISBN9784130513173</li> <li>・A.H. ハルゼー他編、刈谷他編訳『グローバル化・社会変動と教育 2』同前 2012年 ISBN9784130513180</li> <li>・A.H. ハルゼー他編、住田他編訳『教育社会学 第三のソリューション』</li> </ul>
成績評価の基準と方法	基準	到達目標に沿って総合的に判断し一定の水準に達していれば合格。
	方法	学期末終了試験 70%、受講態度 15%、小レポート 15%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	政治史	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この講義では、第二次世界大戦後の政治史を概観します。まず米国とソ連の冷戦について概説し、その後、日本の外交政策の経緯や冷戦下のアジアの状況などについて確認していきます。
	到達目標	講義では、米ソの冷戦や日本の外交政策の背景、朝鮮戦争、ベトナム戦争などの経緯を説明していきます。戦後政治史の全体をつかみ、日本との関係を考え、これからの国際政治を理解するための素地を作ることが、この講義の目的です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 冷戦とは何か (3) 米ソ冷戦① (冷戦体制の確立) (4) 米ソ冷戦② (ベルリン危機) (5) 米ソ冷戦③ (キューバ危機とデタント) (6) 米ソ冷戦④ (核軍縮の動き) (7) 米ソ冷戦⑤ (キッシンジャー外交) (8) 米ソ冷戦⑥ (冷戦の終結とソ連崩壊) (9) アジアの冷戦① (冷戦下のアジア) (10) アジアの冷戦② (中華人民共和国の成立) (11) アジアの冷戦③ (朝鮮戦争) (12) アジアの冷戦④ (ベトナム戦争) (13) 冷戦下の日本外交① (14) 冷戦下の日本外交② (15) 結論	
自学自習	事前学習	教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	使用教材	初回の講義で指示します。
	参考文献	佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史 (新版)』有斐閣、2009年 佐々木卓也著『冷戦』有斐閣、2011年 村田晃嗣ほか著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年 高坂正堯『現代の国際政治』講談社学術文庫、1989年 中西寛ほか著『国際政治学』有斐閣、2013年 田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識 (新版)』有斐閣、2010年
成績評価の基準と方法	基準	講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書やインターネットの丸写しなど不誠実な答案は、評価の対象外となり、単位は認定されません。
	方法	受講人数に応じて、試験または期末レポートにより評価します。初回の講義で指示します。
備考	講義中に私語をする学生の受講は、認めません。講義担当者から注意を2回以上受けた場合、単位は認定されません。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	経済学	
担当者	三宅 裕介 / Miyake Yusuke	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	経済理論で現実の経済現象を分析します。
	到達目標	経済理論の仕組みを学び、その演習問題を解いて理解できる。
授業計画	(1) 家計の経済学 効用最大化と予算制約 (2) 効用関数と予算制約式 (3) 効用最大化 (4) 与件の変化による最適消費の変化 (5) 需要曲線の導出 (6) 企業の経済学 (7) 中間試験 (8) 利潤関数 (9) 利潤最大化条件 (10) 費用関数 (11) 平均費用と平均可変費用 (12) 損益分岐点と操業停止点 (13) 供給曲線の導出 (14) 部分均衡分析と市場の安定性 (15) 余剰分析	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	講義において指定する。
成績評価の基準と方法	基準	・総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 ・上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	中間試験 40 点、期末試験 60 点とします。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学実験Ⅱ	
担当者	◎木下 昌也 / 神菌 紀幸 / 小林 純子 / 野上 真 / 松田 君彦	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 実験 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	心理学実験Ⅰに引き続き、心理学的理論や法則、モデル等を実験を通じて実際に体験しながら、基本的な実験、調査、観察、計量の仕方を学ぶ。
	到達目標	実験を通じて、種々の心理事象について関心を深めると共に、心理学の幅広い基礎知識を習得する。 また実際の実験遂行、データ処理の仕方、レポート（論文）の書き方など、科学研究活動に必要な技能を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) Ⅰ．知覚心理学分野 (3) Ⅰ．知覚心理学分野 (4) Ⅱ．社会心理学分野 (5) Ⅱ．社会心理学分野 (6) まとめ (7) Ⅲ．行動研究の基礎 (8) Ⅲ．行動研究の基礎 (9) Ⅳ．認知心理学分野 (10) Ⅳ．認知心理学分野 (11) まとめ (12) Ⅴ．学習心理学分野 (13) Ⅴ．学習心理学分野 (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・オリエンテーションで配布する資料をよく読んでおくこと。 ・不明な用語は関連する書籍等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各分野・領域ごとにレポート課題を課す。 ・必要な事項は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回の実験に参加し、その都度、必要な要件を満たしたレポート課題を提出すること。
	方法	最終成績は、各回を担当する教員がそれぞれ独立に評価したものの合算による。
備考	2年生以下の受講は認めない。1限目と2限目の両方とも受講すること。上記内容の実施順序は変更になる場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理検査法 I	
担当者	◎石井（利） / 飯干 / 石井（佳） / 大島 / 小林 / 白井 / 松本 / 山喜	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	心理検査法 I では、心理検査の基礎として、質問紙法や投影法、知能検査等の中で最も頻用されている検査の特徴や実施方法、解釈について学ぶ。なお、オリエンテーションと心理アセスメント概説の講義の後、3回目以降は2つ(または3つ)の組に分かれ、並行して進めていく。組分けと各組の実習スケジュールは、第1回目のオリエンテーション時に配布する。
	到達目標	各心理検査の特徴や実施方法、解釈についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理アセスメント概説 (3) クレペリン (4) TEG-II (5) WAIS-III ① (6) WAIS-III ② (7) WAIS-III ③ (8) 主要5因子性格検査 (9) バウム・テスト (10) Y-G 性格検査 (11) MMPI ① (12) MMPI ② (13) MMSE-J (14) SCT (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・各検査法について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	各心理検査用具およびマニュアルを使用し、必要に応じてレジメを配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、各心理検査の特徴や実施方法、解釈について理解しているものを合格とする。
	方法	心理検査ごとにレポートを提出する。受講態度（30点）と各検査のレポート（70点）で評価する。授業に出席せずにレポートを提出した場合は評価の対象としない。
備考	実習の性質上、遅刻者は不利益を被ることになり、また他の受講生の迷惑になるため、遅刻は厳に慎むこと。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理検査法Ⅱ	
担当者	◎石井（利） / 飯干 / 石井（佳） / 大島 / 小林 / 白井 / 松本 / 山喜	
科目情報	心理臨床＜基礎＞ / 選択 / 後期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	心理検査法Ⅱは、病院臨床でよく用いられている投影法を中心に計画されている。各検査の特徴及び実施方法、解釈の基本を学ぶ。
	到達目標	各心理検査の特徴や実施方法、解釈についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) P-F スタディ ① (3) P-F スタディ ② (4) 風景構成法 (5) 新版 S-M 社会生活能力検査 (6) 標準言語性対連合学習検査、WCST (7) コラージュ (8) ベンダー・ゲシュタルト・テスト (9) 遠城寺式発達検査 (10) 統合型HTP法 (11) ロールシャッハ・テスト ① (12) ロールシャッハ・テスト ② (13) ロールシャッハ・テスト ③ (14) ロールシャッハ・テスト ④ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・各検査法について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	各心理検査用具およびマニュアルを使用し、必要に応じてレジメを配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、各心理検査の特徴や実施方法、解釈について理解しているものを合格とする。
	方法	心理検査ごとにレポートを提出する。受講態度（30点）と各検査のレポート（70点）で評価する。授業に出席せずにレポートを提出した場合は評価の対象としない。
備考	受講前提科目：心理検査法Ⅰ 実習の性質上、遅刻者は不利益を被ることになり、また他の受講生の迷惑になるため、遅刻は厳に慎むこと。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	心理学研究法	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代の心理学においては、測定されたデータによって法則や理論を帰納することと、これら法則・理論からの予測をデータによって実証することの循環によって、生体行動を体系的に理解しようとする。この授業では、このような心理学的研究を行うための方法や原理を理解・習得することを目的とする。
	到達目標	心理学的研究の基本的な方法について学び、その理解を深めると共に、測定されたデータの解析方法について把握する。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) 心理学研究の論理とそのプロセス 実証のロジック (3) 研究の種類 実験的研究と相関的研究 (4) 実証のためのプロセスと考え方 (5) 実験的研究法 独立変数の操作 (6) 剰余変数の統制 統制の原理と必要性 (7) 従属変数の測定 測定の信頼性と妥当性 (8) 得られたデータの解釈と記述 主効果と交互作用効果の考え方 (9) 分散分析法 (10) 相関的研究法とその方法論 (11) 多変量解析の基礎 回帰モデルの考え方 (12) 重回帰分析の適用法 (13) 因子分析 (14) リサーチ・リテラシー データを読み取る力 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・心理学の研究方法について関連する資料や書籍に目を通していき、意味のわからない用語は調べておくこと。
	事後学習	・参考資料等で必要な事柄についての理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	高野陽太郎・岡隆 編『心理学研究法』有斐閣アルマ 2004年 ISBN 4-641-12214-8
成績評価の基準と方法	基準	種々の心理学的研究法についての知識を持ち、それらについて論述でき、データ解析方法について理解を得ていることを合格の目安とする。
	方法	筆記試験を課す。 [授業への取り組み(受講態度など)40%/筆記試験 60%]
備考	「心理学測定法」を履修済みであることを前提に授業は行う。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	学習心理学Ⅱ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	前半は応用行動分析について、後半は言語行動をテーマに取り上げ学習心理学の視点から講義する。いずれの話題にも子ども（障害児を含む）の学習過程の内容を含む。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の生物学的心理学的基盤およびその学習、発達過程について理解する</li> <li>・応用行動分析の基礎を理解する</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 行動分析学について (3) 応用行動分析① (4) 応用行動分析② (5) 応用行動分析③ (6) 応用行動分析④ (7) 応用行動分析⑤ (8) 応用行動分析⑥ (9) 言語行動① (10) 言語行動② (11) 言語行動③ (12) 言語行動④ (13) 言語行動⑤ (14) 言語行動⑥ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	P. A. アルバート&A. C. トルートマン『初めての応用行動分析』二瓶社 1992年 ISBN 4-931199-15-1 日本行動分析学会編『ことばと行動』ブレーン出版 2001年 ISBN 4-89242-675-X 佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト（100%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	行動生理学	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成22年度以前入学生「行動生理学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	大脳の働きについて学び、その機能局在を理解する。脳の損傷が起こった場合の高次脳機能障害と、それらに伴うこころの問題を学び、評価や支援の在り方を考える。
	到達目標	大脳の大きな解剖・生理を学び、機能局在（注意・記憶・言語・思考・情動など）を理解する。大脳の働きを測定する簡単な神経心理検査について、一部を体験する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 脳の仕組み① (3) 脳の仕組み② (4) 脳の機能局在①注意 (5) 脳の機能局在②記憶 (6) 脳の機能局在③言語 (7) 脳の機能局在④思考 (8) 脳の機能局在⑤情動 (9) 高次脳機能障害とは (10) 高次脳機能障害の支援とは (11) 神経心理検査体験① (12) 神経心理検査体験② (13) 神経心理検査体験③ (14) 神経心理検査体験④ (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	レポートを数回課す
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	①山田規敏子：高次脳機能障害者の世界－私が思うリハビリや暮らしのこと. 2013, 共同医書出版。 ②橋本圭司：高次脳機能障害のリハビリがわかる本. 2012, 講談社。
成績評価の基準と方法	基準	大脳の基本的な働きについての理解が達成されたものは合格とする
	方法	レポート50%, 検査体験と集計30%, 受講態度20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	認知心理学	
担当者	横山 春彦 / YOKOYAMA, Haruhiko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	認知は唯一の情報の入り口である感覚、またそれらの情報をまとめる知覚を包括する知る活動全体の機能・機構を意味する。その活動によりヒト・動物は行動・学習が可能となる。授業ではそうした認知をめぐる問題を毎回少数のキーワードを用いて解説する。またヒトや動物をとりまく身近な環境についても取り上げる。
	到達目標	授業内容がつかみやすいよう、毎回少数のキーワードをめぐる講義を行う。そのキーワードの意味する内容および、それが示唆するもの、関連事項等について適切な理解を得ることが目標である。
授業計画	(1) 「感覚」の役割、身近な動植物、のらねこ研究 (2) 「感覚」「知覚」「認知」の概念、身近な動植物、のらねこ研究 (3) 「可視光線」「光受容器」「視覚野」、身近な動植物、のらねこ研究 (4) 「視野」「盲点」「網膜像」、身近な動植物、のらねこ研究 (5) 「中心視」「周辺視」「眼球運動」、身近な動植物、のらねこ研究 (6) 「単眼視」「両眼視」「立体視」、身近な動植物、のらねこ研究 (7) 「空間化」「視覚世界」、身近な動植物、のらねこ研究 (8) 「色相」「明度」「彩度」、身近な動植物、のらねこ研究 (9) 「ベツォルト・ブリュッケ現象」「進出・後退色」、身近な動植物、のらねこ研究 (10) 「ゲンシュタルト要因」、身近な動植物、のらねこ研究 (11) 「仮現運動」「誘導運動」「自動運動」、身近な動植物、のらねこ研究 (12) 「形の恒常性」「色の恒常性」「明るさの恒常性」、身近な動植物、のらねこ研究 (13) 「大きさ・位置・方向の恒常性」、身近な動植物、のらねこ研究 (14) 「視覚性定位障害」「視覚失認」「立体視障害」、身近な動植物、のらねこ研究 (15) 「半側空間無視」「反復視」「相貌失認」、身近な動植物、のらねこ研究	
自学自習	事前学習	・シラバスに示されたキーワードにつき、事前にその概要を調べ、理解しておくことが望ましい。
	事後学習	・授業で提示されたキーワードにつき、日常にある身近な具体例やその関連事項等について整理しておくことが望ましい。
使用教材・参考文献	使用教材	授業はパワーポイントで進める。テキストは使用せず、必要に応じて資料の配布を行うことがある。
	参考文献	参考図書などについても適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえ、期末試験において、授業の基本となるキーワードを適切に理解するとともに、その関連事項についても十分かつ適切に説明・解説しうると判定された者は合格、不十分と判定された者は不合格とする。
	方法	授業態度等 (30 点) 及び期末試験の成績 (70 点) により総合的に評価する。
備考	教員が指示する読書課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	行動生理学演習	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	大脳の障害によっておこる各種の高次脳機能障害について、概要を踏まえた上で、具体的な神経心理検査の実施方法を学ぶ。
	到達目標	神経心理検査の実施と、集計ができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 高次脳機能障害とは (3) 注意障害と評価：標準注意機能検査 CAT① (4) 注意障害と評価：標準注意機能検査 CAT② (5) 記憶障害と評価：リバーミード行動性記憶検査 RBMT① (6) 記憶障害と評価：リバーミード行動性記憶検査 RBMT② (7) 遂行機能障害と評価：遂行機能検査 BADS① (8) 遂行機能障害と評価：遂行機能検査 BADS② (9) 半側空間無視と評価：行動性無視性検査 BAT① (10) 半側空間無視と評価：行動性無視性検査 BAT② (11) 失行と評価：標準高次動作性検査 SPTA① (12) 失行と評価：標準高次動作性検査 SPTA② (13) 高次脳機能障害に関する文献抄読① (14) 高次脳機能障害に関する文献抄読② (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	5回のレポート、文献抄読発表1回を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	①和田義明：リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害. 2012, 秀和システム ②阿部順子・東川悦子（編）：高次脳機能障害を生きる—当事者・家族・専門職の語り. 2015, ミネルヴァ書房
成績評価の基準と方法	基準	小レポート 50%、文献抄読 25%、受講態度 25%
	方法	高次脳機能障害の概要を理解し、神経心理検査の実施と集計ができたものは合格とする
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	認知心理学演習	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	認知心理学、神経科学、動物行動学等に関連する文献について講読する。
	到達目標	心理学及びその周辺科学の最新の研究について興味を持てるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 発表と討論、解説 (3) 発表と討論、解説 (4) 発表と討論、解説 (5) 発表と討論、解説 (6) 発表と討論、解説 (7) 発表と討論、解説 (8) 発表と討論、解説 (9) 発表と討論、解説 (10) 発表と討論、解説 (11) 発表と討論、解説 (12) 発表と討論、解説 (13) 発表と討論、解説 (14) 発表と討論、解説 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	自分の発表について準備する。
	事後学習	他者の発表について自分の発表と関連がないか検討する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。
	参考文献	授業中紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	発表、及び他者の発表に対するコメントから上記目標に到達しているかどうか評価する。授業に出席しない人は上記目標に到達していないとみなして不可とする。
	方法	発表 (35%)、他者の発表に対するコメント (65%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育メディア論	
担当者	山本 朋弘 / YAMAMOTO, Tomohiro	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目） (5)教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） 教育の情報化が進展し、ICT（情報通信技術）を活用した指導の充実が求められている。本授業では、タブレット端末や電子黒板、インターネット等を取り上げ、ICTを活用した授業の設計や教材開発、学習評価等、授業でのICT活用の基礎を学ぶ。
	到達目標	教育課題の解決にICTが果たす役割について理解するとともに、タブレット端末や電子黒板等のICTを活用した授業での教材開発や授業設計の基礎を学ぶ。また、ICTを活用した授業での教材や指導案を作成し、他と共有・協議しながら、授業実践に関する実践的能力を身につける。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 教育の情報化に関する現状と課題 (3) 教材開発と学習評価 (4) 教材作成のシステム設計 (5) 教師のICT活用指導力 (6) 教材企画書の作成 [課題1] (7) 相互評価・改訂版の作成 (8) ICT活用による教材作成 (9) タブレット活用と学習支援システム (10) 授業案の作成 [課題2] (11) 情報活用能力の育成 (12) ICTを活用した授業の設計 (13) 授業案の発表と相互評価・改訂 [課題3] (14) 授業研究と授業設計の流れ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 使用教材を必要に応じて読む。 ・ 意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	・ 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・ 小テストや使用教材・参考文献を用いて復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	・ 学習指導要領及び解説 ・ 文部科学省「教育の情報化に関する手引」
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。
	方法	小テスト・フォーラムへの投稿（20%）、課題1（20%）、課題2（30%）、課題3（30%）の累積で評価する。
備考	教育実習を希望する者は、事前に本科目の履修が必要。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校臨床論演習	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成22年度以前入学生「教育方法論演習」	
科目概要	授業内容	本科目は、適応支援教育の指導法について、臨床的方法の一役を担う音楽療法の手法を用いて考えていきます。また、特別なニーズのある子どものコミュニケーション方法について、音楽療法の実践的展開を通して検討していきます。
	到達目標	(1) 教育臨床の一試論となる音楽療法の意義について理解する。 (2) 音楽療法の実践的展開を通して、適応支援教育の指導法について理解を深める。 (3) 特別なニーズのある子どものコミュニケーション方法について、音楽療法の視点から考察することができる。
授業計画	(1) 適応支援教育の指導法としての音楽療法の意義と目的 (2) 音楽療法の概念と定義 (3) 音楽療法の人間への作用 (4) 音楽療法と脳科学との関連 (5) 音楽療法の原理 (6) 音楽療法のアセスメント（評価） (7) 適応支援教育における活用法①（即興的音楽療法） (8) 適応支援教育における活用法②（能動的音楽療法） (9) 適応支援教育における活用法③（受動的音楽療法） (10) 適応支援教育における活用法④（エコラリー音楽療法） (11) 適応支援教育に向けた「ピア・ラーニング」①（身体活動を用いて） (12) 適応支援教育に向けた「ピア・ラーニング」②（歌声を用いて） (13) 適応支援教育に向けた「ピア・ラーニング」③（楽器を用いて） (14) 適応支援教育に向けた「ピア・ラーニング」④（絵本の音づけを用いて） (15) 適応支援教育における音楽療法の展望と課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・自らの経験と講義内容をふまえながら、心を育む支援法となる音楽療法について省察し理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	・村井靖児著 『音楽療法の基礎』 音楽之友社 1995年 ・中島恵子・山下恵子 『Co-Musictherapy～音と人をつなぐ～』 春秋社 2002年
成績評価の基準と方法	基準	・適応支援教育の指導法となる音楽療法について理解し、音楽療法の実践的展開を通して、特別なニーズのある子どもへの支援の在り方について考察できることを合格の基準とします。
	方法	・最終レポート（40%）、小レポート（20%）、演習発表（40%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学演習	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	グループごとに日本教育心理学研究の論文を購読する。資料作成、発表、ディスカッションを通じて、教育心理学に対する理解を深める。
	到達目標	教育心理学に対する理解を深め、説明できる。また、教育心理学研究の現状や課題、研究法について知る。
授業計画	(1) オリエンテーション・グループ分け (2) 教育心理学研究の読み方・資料のまとめ方 (3) グループごとのテーマ設定 (4) グループによる発表、ディスカッション (5) グループによる発表、ディスカッション (6) グループによる発表、ディスカッション (7) グループによる発表、ディスカッション (8) グループによる発表、ディスカッション (9) グループによる発表、ディスカッション (10) グループによる発表、ディスカッション (11) グループによる発表、ディスカッション (12) グループによる発表、ディスカッション (13) グループによる発表、ディスカッション (14) グループによる発表、ディスカッション (15) まとめ	
自学自習	事前学習	教育心理学の研究論文を読み、レジュメ・パワーポイントにまとめること。
	事後学習	発表内容について資料を読み、振り返ること。
使用教材・参考文献	使用教材	特になし。
	参考文献	講義内で紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教育心理学研究における現状や課題など理解し、まとめ、他者に説明できたものは合格とする。
	方法	ディスカッションへの参加等授業への参加態度（40%）、発表内容（60%）に基づき、総合的に評価する。
備考	受講者人数によって内容を調整する可能性がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	教育臨床実習	
担当者	白井 祐浩 / 野浪 俊子 / ◎松田 君彦	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	発達障害のある子どもの特徴、教育場面における集団編成や指導形態の在り方とその方法について学ぶ。発達障害児や家族への支援やその補助方法について、デイキャンプにおける野外活動等の企画立案や実習を通じて体験する。
	到達目標	・発達障害のある子どもの特徴や教育方法の在り方について説明できるようになる。 ・発達障害のある子どもに対する心理教育的支援指導の補助ができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 【B1】 発達障害のある子どもの特徴と教育（講義） (3) 発達障害のある子どもへの集団編成・指導形態の在り方と方法（講義・調査） (4) 発達障害のある子どもへの集団編成・指導形態の在り方と方法（発表） (5) 中間発表会 (6) 【B2】 デイキャンプの企画立案 (7) デイキャンプの企画書案の作成 (8) デイキャンプ企画書案の妥当性の検証（専門家アドバイス） (9) デイキャンプ企画書の完成 (10) 【B3】 本実習の準備(1) (11) 本実習の準備(2) (12) 【B4】 [本実習] 本実習の振り返り (13) 本実習についての専門家レビュー (14) 実習器具の整理・引継資料の作成 (15) 実習全体の振り返りと総まとめ	
自学自習	事前学習	・発達障害のある子どもの特徴や教育に関する情報を収集し、まとめる。
	事後学習	・デイキャンプを企画立案し、実施に必要な問題や準備に取り組む。 ・実習後の振り返りをレポートにまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。
	参考文献	針塚進（監修）・遠矢浩一（著）『軽度発達障害児のためのグループセラピー』ナカニシヤ出版，2006年，ISBN9784779500428
成績評価の基準と方法	基準	原則として、事前学習の実施、活動計画と実習への参画、省察レポートの提出を単位取得の条件とする。
	方法	事前調査と発表（20%）、活動の企画と実習への参画（60%）、省察レポート（20%）の累積で評価する。欠席は減点する。
備考	・休日を利用して、学外での野外活動を含む実習を実施する	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	医療心理臨床学	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	医療領域における臨床心理士の役割について学びます。また、心理療法の技法である臨床動作法について学び、実際に臨床動作法の実技を行う体験を通して、心理臨床における基本的な態度を身に着け、心理療法を体験します。
	到達目標	1. 医療領域における心理療法や臨床心理士の役割を理解することができる 2. 臨床動作法の理論や援助、心理的な効果について理解することができる
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理臨床の領域 (3) 心理臨床と臨床心理士 (4) 医療における心理臨床活動 (5) 子どもの心理臨床 (6) 親の心理臨床 (7) 臨床動作法を学ぶ 姿勢を見る 1 (8) 臨床動作法を学ぶ 姿勢を見る 2 (9) 臨床動作法の実際 肩上げ課題 1 (10) 臨床動作法の実際 肩上げ課題 2 (11) 臨床動作法の実際 前屈げ課題 1 (12) 臨床動作法の実際 前屈げ課題 2 (13) 臨床動作法の実際 立位課題 1 (14) 臨床動作法の実際 立位課題 2 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・日頃からからだの調子について関心をもっておくこと ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと
	事後学習	・授業の復習、課題学習をすること
使用教材・参考文献	使用教材	授業中にプリントを配布、資料提示します
	参考文献	鶴 光代著『臨床動作法への招待』金剛出版 2007年 成瀬悟策著 ブルーボックス 『姿勢のふしぎ』講談社 1998年 その他、適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	医療領域における臨床心理士の役割や心理臨床における基本的態度、臨床動作法の立場における理論や援助について理解した者を合格とする。
	方法	受講態度：40%、試験：60%
備考	定員 40 名。からだを動かします。軽い運動ができるような服装で受講することが望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	精神医学	
担当者	植村 健吾 三好 学	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	精神医学の基本的な知識や考え方、治療論について概説する。主には臨床心理士や精神保健福祉士など臨床家をを目指す学生を聴衆に想定しているが、それ以外にも広く一般教養として精神医学や精神療法・心理療法に関心を持って受講される方にも理解を深められるようなものとする。
	到達目標	心の臨床について、将来それぞれの分野で役に立てるよう、知識と理解を深められること。
授業計画	(1) 精神医学・精神科治療論① 総論 (2) 精神医学・精神科治療論② 精神療法・心理療法ほか治療論を中心に (3) 統合失調症圏の問題について (4) 感情障害とその周辺 (5) 神経症性障害① (6) 神経症性障害② (7) 神経症性障害③ (8) 種々のアディクション（依存症）について (9) 成長・発達とそれに伴う障害について (10) 器質性・症状性精神障害／認知症 (11) 治療と人権、法律（精神保健福祉法・医療観察法・児童福祉法）① (12) 治療と人権、法律（精神保健福祉法・医療観察法・児童福祉法）② (13) 行政など他機関との関わり、ソーシャルワーク (14) 総まとめ① (15) 総まとめ②・補遺	
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと
	事後学習	その都度、資料や文献の関連箇所を読みかえす。
使用教材・参考文献	使用教材	中井久夫『看護のための精神医学 第2版』医学書院 2004年 (ISBN-13:978-4260333252)
	参考文献	大熊輝雄『現代臨床精神医学 第12版』金原出版 2013年 (ISBN-13:978-4307150675) ほか、講義の中で適宜、文献・資料は紹介します。
成績評価の基準と方法	基準	精神医療に関わる基本的な事項について理解が得られれば合格とします。
	方法	レポート 80%、受講態度 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	精神保健福祉援助技術総論	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	精神障害者の障害特性について学び、生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深め、当事者の経験からも学ぶ。また、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの目的や価値について基本的な視点を学習する。講義形式を基本としながら、演習・ビデオ学習などを取り入れる。
	到達目標	精神障害者の障害特性について学び、生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深め、当事者の経験からも学ぶ。また、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの目的や価値について基本的な視点を学習する。
授業計画	(1) オリエンテーション（精神保健とはなにか） (2) 精神障害（者）の理解①統合失調症） (3) 精神障害（者）の理解②（うつ・依存症、その他） (4) わが国の精神保健福祉の変遷① (5) わが国の精神保健福祉の変遷② (6) 専門的援助技術の体系 (7) 精神保健福祉活動の目的と価値・倫理 (8) 精神保健福祉活動の方法と過程 (9) 精神保健福祉援助技術の実際① (10) 精神保健福祉援助技術の実際② (11) 精神保健福祉援助技術の視点① (12) 精神保健福祉援助技術の視点② (13) 精神障害者の地域生活支援① (14) 精神障害者の地域生活支援② (15) 精神保健福祉援助技術総論まとめ	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことが望ましい。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回の授業内容について考察し、その意義を明確にし、要点を再確認しておく
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布する教材を用いる。
	参考文献	随時紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	精神障害者の障害特性や福祉援助における対人サービスの視点を理解できているものは合格とする。ただし、出席日数3分の2に満たない者は不合格とする。
	方法	授業参加度 55点 定期試験 45点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	医療心理臨床学演習	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	グループを作り、リハビリテーション心理学研究、心理臨床学研究、教育心理学研究等の研究論文をまとめ、発表する。資料作成、発表、ディスカッションを各グループごとに主体的に行い、臨床心理学研究に対する理解を深める。
	到達目標	臨床心理学研究に対する理解を深め、説明できる。また、臨床心理学研究の研究手法、現状や課題について知る。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) グループ分け・論文の読み方とまとめ方 (3) 各グループによるテーマ選択 (4) グループ発表・ディスカッション (5) グループ発表・ディスカッション (6) グループ発表・ディスカッション (7) グループ発表・ディスカッション (8) グループ発表・ディスカッション (9) グループ発表・ディスカッション (10) グループ発表・ディスカッション (11) グループ発表・ディスカッション (12) グループ発表・ディスカッション (13) グループ発表・ディスカッション (14) グループ発表・ディスカッション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	論文を読み、レジュメにまとめること グループ内で役割分担をして取り組むこと
	事後学習	レジュメを読み、復習をしておくこと
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない
	参考文献	授業中に紹介する
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学に関する研究の現状や課題を理解し、他者に説明できたものは合格とする
	方法	発表内容（60%）、ディスカッションへの参加等授業への参加態度（40%）に基づき、総合的に評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学演習	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の研究法における論文検索の方法について教員から説明する。</li> <li>臨床心理学に関する論文を 1~2 人で読み、内容にかんする要約と図を作成する。</li> <li>発表者がまとめた論文内容に基づき、グループディスカッションを行う。</li> </ul>
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の検索の仕方を理解し実践することで、自らの関心に沿った文献が見つけれられるようになる。</li> <li>論文をまとめる経験を通じて、論文の構造や内容が大まかに理解できるようになる。</li> <li>他の受講生がまとめた論文に触れることをを通じて、臨床心理学の研究対象や内容について理解の幅を拡げ、自らの研究につなげる。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 文献検索の仕方 (1) (3) 文献検索の仕方 (2) (4) 論文紹介とディスカッション (1) (5) 論文紹介とディスカッション (2) (6) 論文紹介とディスカッション (3) (7) 論文紹介とディスカッション (4) (8) 論文紹介とディスカッション (5) (9) 論文紹介とディスカッション (6) (10)論文紹介とディスカッション (7) (11)論文紹介とディスカッション (8) (12)論文紹介とディスカッション (9) (13)論文紹介とディスカッション (10) (14)論文紹介とディスカッション (11) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した論文の論旨をまとめておくこと。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。</li> </ul>
	参考文献	松井豊著 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために 河出書房 2010年 ISBN:4309245226
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の研究方法や論文の構成を理解して発表できた者を合格とし、そうでない者は不合格とする。
	方法	論文の発表 60%、発表に対するグループ討論参加 40%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	医療臨床実習	
担当者	◎野添 新一 / 石井 利文 / 大島 英世 / 松本 宏明	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	医療分野において患者中心の医療を実現するためには、患者に対する十分な心のケアが必要不可欠であり、現在、精神科や心療内科を中心に、産科、小児科においても心理臨床家の活躍する場が増加している。本実習は、「臨床人間学」や「医療心理臨床学」等の講義で身につけた知識を実践に活かすことを目的として、心理士が活躍しているいくつかの医療機関等において見学実習や参加実習を行い、各機関における心理臨床的援助の対象者に対する理解を深め、心理士の役割、他職種職員との連携の重要性について学ぶ。
	到達目標	1. 各施設に関する基礎的な知識を得られる。 2. 実践を通し、各施設における心理士の役割や他職種職員との連携についての知識が得られる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 講義 ① 精神科病院について (3) 講義 ② 少年鑑別所について (4) 講義 ③ デイ・ケアについて (5) 講義 ④ ホスピスについて (6) 講義 ⑤ 児童福祉施設について (7) 講義 ⑥ 介護保険関連施設について (8) 講義 ⑦ 医療臨床現場における近年の動向 (9) 実習事前説明会 (10)実習 (1) (11)実習 (2) (12)レポート作成指導 (1) (13)レポート作成指導 (2) (14)発表用原稿指導 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・各施設の役割について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要に応じてレジメを配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	各施設における心理臨床的援助の対象者について理解し、心理士の役割や他職種職員との連携等について理解したものを合格とする。 各施設における実習を欠席した場合は採点の対象とならない。また、発表会を欠席した場合も採点の対象とならない。
	方法	各施設の実習レポート（60点）と発表（40点）で評価する。
備考	・講義①～⑥は福祉臨床実習と合同で行う。 ・上記15回の授業以外に発表会を開催する。発表会は10月初旬～中旬頃。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地域福祉論	
担当者	十島 真理 / TOSHIMA, Mari	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	地域福祉の理念と内容について、地域の関わりを理解するとともに住民の役割について考える。福祉関係法や各制度の手續、内容等についても学びながら、利用者主体、自立支援、ノーマライゼーションといった福祉の理念と現実を考える。
	到達目標	福祉全般（高齢者福祉、障害者福祉の現状を中心）について理解し、地域福祉の概念、理念、サービスの実施主体等について学び、今後の課題について理解する。
授業計画	(1) 地域福祉とは：地域福祉の概念 (2) コミュニティの理解：地域福祉の基盤としてのコミュニティ (3) 日本における地域福祉の歴史 (4) 地域福祉の主体と対象 (5) 地域福祉の方法論 (6) 地域福祉と社会福祉協議会 (7) 地域福祉と権利擁護 (8) 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (9) 地域福祉とボランティア、NPO (10) 地域での生活を支える地域福祉サービスの実際 (11) 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (12) 地域福祉の財源 (13) 地域福祉と介護保険 (14) 地域福祉の実践例 (15) これからの地域福祉の在り方 まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだことを理解し、実践するよう努力する。
使用教材・参考文献	使用教材	『地域福祉の今を学ぶ 理論・実践・スキル』妻鹿ふみ子編著 ミネルヴァ書房
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	地域福祉の概念、理念、サービスの実施主体等を理解し講義の目的を達成されたものは合格とする。上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。4回以上欠席した者は不合格とする。
	方法	テスト60% 授業参加態度40%、(小テスト20点、期末試験40点 宿題30点、受講態度10点)
備考	1. 教科書を購入しなければ受講できない。なお、教科書は共同購入する。 2. 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	発達障害心理学	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	教育現場において、近年大きな問題であり課題となっている“発達に偏りや遅れを持つ子どもたち（発達障害児）”をどう理解し援助していくかということについて、「特殊教育」から「特別支援教育」への転換に至った経緯とその現状を概観しながら考えていく。あわせて、具体的に（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害など主な発達障害について学習していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特殊教育」から「特別支援教育」への転換について学ぶ。</li> <li>・ 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。</li> <li>・ 主な発達障害（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害（4）AD/HD（5）情緒障害などについて学ぶ。</li> </ul>
授業計画	(1) 「発達障害者支援法」、「特殊から特別支援への変遷」について学ぶ。 (2) 発達障害についての概論の学習 (3) 知的障害（MR） (4) 自閉症スペクトラム（ASD）① (5) 自閉症スペクトラム（ASD）② (6) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）① (7) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）② (8) 学習障害① (9) 学習障害② (10) 情緒発達障害①不登校 (11) 情緒発達障害②行為障害 (12) 児童虐待① (13) 児童虐待② (14) 治療と援助について (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	・ 学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達障害の心理臨床 2005 田中千穂子ら 有斐閣アルマ</li> <li>・ 「学習指導要領」</li> </ul>
成績評価の基準と方法	基準	「発達障害心理学」に関して、講義の到達目標の3項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉コミュニティ論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	無前提に「良いこと」とされ「本音の議論」がしにくい「福祉ボランティア」活動を、様々な角度から「科学」する。ボランティアやNPOの活動に見られる政府・市場・市民の分担・協同と拮抗、現代社会における市民による福祉提供の位置づけ、「援助」的行為を考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズの多様化した現代社会では、公的社会福祉だけでは福祉は実現できず、市民活動による社会サービスの提供が不可欠であることを理解する。</li> <li>・ボランティア活動は公的社会福祉の補完を常に「期待される」存在であること、その背景や歴史、及びそのことがボランティア活動にもたらすものを理解する。</li> <li>・「援助—被援助」関係の社会関係的特性とそれを踏まえた援助的関わりを理解する。</li> <li>・社会サービスを提供する市民活動としてのNPOについて、正確な知識を獲得し、市民に説明できる。</li> <li>・人々の生活の中に福祉ニーズをキャッチする感覚を育</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション／「福祉」の多義性／福祉・教育・医療と「生活」／福祉の3つの源流 (2) 福祉と人権感覚—「福祉」のレベルと内容は、その社会の人々の人権意識が左右する (3) ボランティア活動登場の社会構造的背景—[生活資料・生活サービス]の提供主体とその変化 (4) 市民福祉やボランティア活動登場の歴史 (5) ボランティア活動の量的増加・質の上昇で浮上してきたボランティア研究の論点 (6) ボランティアの行為論—奉仕や慈善の理念との違い (7) ボランティア活動の動機論 (8) 援助論から見たボランティア活動—[援助]と[自立] (9) ボランティア論まとめ—社会構造に埋め込まれた「市民の自発的活動」特性 (10) ボランティア・グループの活動からNPO法人制度の誕生へ (11) 社会的活動の継続・事業化としてのNPO法人制度 (12) NPO法人の課題—財政・人材・マネジメント (13) NPO法人活動の高度化とボランティアの関係 (14) ボランティア・NPOの活動の発展のための条件を考える (15) 総まとめとワークショップ	
自学自習	事前学習	新聞・TVでのボランティアやNPOのニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	授業に出てきた用語や概念、取り上げた社会事象については、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣、2007年、ISBN 9784641123328 岡本榮一他編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会、2006年、ISBN 9784873080536 藤田久美編『大学生のためのボランティア活動ハンドブック』ふくろう出版、2008年、ISBN 9784861863349 藤井良広『金融 NPO：新しいお金の流れをつくる』岩波新書、2007年、ISBN 9784004310846 川口清史、田尾雅夫、新川達郎編『よくわか
成績評価の基準と方法	基準	レポートの内容・水準が到達目標に到達しているかどうかを重視する。
	方法	単位レポート 80%/新聞記事報告課題 5%/アクションペーパー課題 10%/ワークショップ 5%
備考	①受講生には最低1回の授業で、ボランティアやNPO関連の新聞記事を選び[記事内容の要約]・[記事に注目する理由]を報告してもらう。 ②自身のボランティア活動やボランティア・イベント等への参加のアクション・レポートを提出すること。その他、授業の進行に応じて作業課題を提示する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉心理臨床学演習	
担当者	中村 年男 / TOSHIO, Nakamura	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	受講者数は10名以内。対象者は福祉臨床コースの学生	
科目概要	授業内容	本講では高齢者や障害者、児童やその家庭が抱える生活問題に焦点をあて、いかにして社会との関係性の中で生活問題を解決していくのか、その方法について学習する。
	到達目標	地域にある社会資源を理解し、生活問題の内容に応じて活用することができる。
授業計画	(1) 序論（福祉心理臨床学演習について） (2) 高齢者の生活支援① (3) 高齢者の生活支援② (4) 高齢者の生活支援③ (5) 高齢者の生活支援④ (6) 高齢者の生活支援⑤ (7) 振り返り① (8) 児童や家庭に対する生活支援① (9) 児童や家庭に対する生活支援② (10) 児童や家庭に対する生活支援③ (11) 振り返り② (12) 障害児・者の生活支援① (13) 障害児・者の生活支援② (14) 障害児・者の生活支援③ (15) 振り返り③	
自学自習	事前学習	事前に配布する資料を読んでおくこと
	事後学習	理解できなかった内容は、自らが調べたり教員に質問すること。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。適宜、必要な資料を配布する。
	参考文献	なし。
成績評価の基準と方法	基準	生活問題の解決を図る社会資源の理解と、生活問題の解決に向けて社会資源の活用ができた者を合格とする。
	方法	受講態度（40%）、レポート（30%）、振り返り（30%）などにより総合的に評価する。2/3以上の出席を前提とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学演習	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）から、学生自身が興味あるテーマを選択し、文献収集、資料作成、口頭発表、ディスカッションを行うことによって、発達に関する多面的な理解を深めていく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）について関心を持つ。</li> <li>関心を持ったテーマについての文献収集、資料作成の方法を学ぶ。</li> <li>自分で作成した資料の口頭発表を行う。</li> <li>他者の発表をもとにディスカッションを行う。</li> </ul>
授業計画	(1) 発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）の概説 (2) 文献収集、資料作成についての学習 (3) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (4) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (5) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (6) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (7) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (8) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (9) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (10) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (11) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (12) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (13) 「子どもの発達臨床」をテーマにした研究の進め方① (14) 「子どもの発達臨床」をテーマにした研究の進め方② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	全国情緒障害児短期治療施設協議会（2002）「心をはぐくむⅢ」
成績評価の基準と方法	基準	「発達心理学」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	福祉臨床実習	
担当者	飯干 紀代子 中村 年男 山喜 高秀	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	児童や障害者、および高齢者のウェルビーイングとQOLの向上を図るため、今日、社会福祉の分野において、臨床心理学の知識と技術に対する要請が非常に強くなってきている。本実習では、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉の現場における臨床心理学の役割について体験学習を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉の現場について、事前に学習する。</li> <li>福祉施設現場への実習における留意点について学ぶ。</li> <li>福祉施設の見学実習（見学とレクチャー）。</li> <li>実習記録のまとめかたを学習する。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 講義 ① 精神科病院について (3) 講義 ② 少年鑑別所について (4) 講義 ③ デイ・ケア施設について (5) 講義 ④ ホスピスについて (6) 講義 ⑤ 児童福祉施設について (7) 講義 ⑥ 介護保険関連施設について (8) 実習事前説明会 (9) 福祉臨床実習 (1) (10) 福祉臨床実習 (2) (11) 福祉臨床実習 (3) (12) レポート作成指導 (1) (13) レポート作成指導 (2) (14) 発表用原稿指導 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・各施設の役割について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を今後の進路選択などに役立てること。 ・学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。
	参考文献	「社会福祉援助技術」片山、李木編(2009) 北大路書房
成績評価の基準と方法	基準	「福祉臨床実習」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。 各施設における実習を欠席した場合は採点の対象とならない。また、発表会を欠席した場合も採点の対象とならない。
	方法	各施設の見学実習のレポート(60点)と発表(40点)で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	コミュニケーション論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論Ⅴ」	
科目概要	授業内容	本講義は、社会学の視点を中心にして、日常生活における対面的なコミュニケーションを成立させている要素について考察を進める。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを成立させる構造について目を向けるための、応用的な視点が獲得できる。</li> <li>・対人関係におけるコミュニケーションの経験について、反省的に考察することができる。</li> </ul>
授業計画	(1) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について(1) (2) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について(2) (3) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について(3) (4) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について(4) (5) 「動機」のコミュニケーション上の構成 (6) 対面的コミュニケーションにおける状況・物理構成面(1) (7) 対面的コミュニケーションにおける状況・物理構成面(2) (8) 対面的コミュニケーションにおける状況・認識的構成面(1) (9) 対面的コミュニケーションにおける状況・認識的構成面(2) (10) ダブルバインドというコミュニケーション(1) (11) ダブルバインドというコミュニケーション(2) (12) 三者関係のコミュニケーション・夏目漱石『こころ』から(1) (13) 三者関係のコミュニケーション・夏目漱石『こころ』から(2) (14) 現代サービス産業における「感情」を媒介としたコミュニケーション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	配付された資料の語句の意味が分からない時はそのままにせず、主体的に調べて理解しておくこと。また、Moodle 課題への取り組みを忘れないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	E. ゴフマン『行為と演技』1974年、誠信書房 (ISBN 4414518016) ほか
成績評価の基準と方法	基準	自分の経験を基にして、授業で扱った視点の内面化が一定程度できていると認められれば合格とする。
	方法	評価はレポートでおこなう。レポート 60%、Moodle 課題 40%の割合で評価を行う。レポートに関しては、配付資料、Web のページ、参考書の文章の写しなどは評価外とする。
備考	Moodle 課題の提出率が6割未満の受講生は評価外とする。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報社会論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論VI」	
科目概要	授業内容	本科目は、大量の情報を基盤として支えられる情報化社会について考えるための論点の提示を目的とする。特に、ブロードバンド化による社会構造、生活の変化、デジタル・デバイド、メディア使用をめぐる個人の変化、メディア・リテラシーなどに焦点を当てて考察する。
	到達目標	・インターネットの普及がもたらした社会の変化について知ることができる。 ・個人、人間関係、地域の領域における情報化の影響に関する視点を身につけることができる。
授業計画	(1) 情報化社会の論点について (2) 統計情報から見る情報化の進展(1) 普及と利用実態 (3) 統計情報から見る情報化の進展(2) 普及と利用実態 (4) 統計情報から見る情報化の進展(3) 活用範囲の拡大 (5) 統計情報から見る情報化の進展(4) ビッグデータという情報化 (6) (6) 統計情報から見る情報化の進展(5) デジタル・デバイス (7) (7) 情報化社会のリスク:サイバー犯罪について(1) (8) (8) 情報化社会のリスク:サイバー犯罪について(2) (9) (9) メディア使用と個人の変容(1) ネット依存(1) (10) (10) メディア使用と個人の変容(2) ネット依存(2) (11) (11) メディア使用と個人の変容(3) メディアの向こうの他者の存在(1) (12) (12) メディア使用と個人の変容(4) メディアの向こうの他者の存在(2) (13) (13) メディア・リテラシー 学問的背景(1) (14) (14) メディア・リテラシー 学問的背景(2) (15) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・授業で配布された資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配付資料が多いので、授業後に再度読み直しておくこと。 ・Moodle の課題で復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	木村忠正『デジタルデバイドとは何か』2001年、岩波書店 (ISBN4-0000-02717-4) 岡田朋之、松田美佐編『ケータイ社会論』2012年、有斐閣選書 (ISBN978-4-641-28215-7)
成績評価の基準と方法	基準	自らの経験に照らして、情報化の流れが及ぼす社会的影響について一定の理解度みられると認められれば合格とする。
	方法	レポート 60%、授業中で不定期に課す課題提出 40%の割合で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	産業組織心理学演習	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	チームワークについての理論的な理解を深めるとともに、「鹿児島再発見プロジェクト」（鹿児島の魅力を県内外に発信する）を運営することにより、チームワークの留意点について体験的に理解する。
	到達目標	産業組織心理学の一研究領域である組織行動論、特にチームワークの効果について理論的知識を得るとともに、それを実践に活かすことができるようになる。また、鹿児島の魅力を発信するプロジェクトを遂行することで、地域についての理解を深めるとともに「社会にこのような貢献をした」と語れる実績を作る。
授業計画	(1) 講義（チームワークの理論と「鹿児島再発見」の一例） (2) 意見集約の技法（K J法） (3) チーム方針の策定 (4) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施準備（1） (5) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施準備（2） (6) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施準備（3） (7) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施準備（4） (8) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施（1） (9) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施（2） (10) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施（3） (11) 「鹿児島再発見プロジェクト」実施（4） (12) プレゼン準備（1） (13) プレゼン準備（2） (14) プレゼン準備（3） (15) プレゼン	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことで理解の助けになります。
	事後学習	活動の中で学んだことを、しっかりと振り返ること
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山口裕幸 『チームワークの心理学』 サイエンス社 2008年 ISBN9784781912066
成績評価の基準と方法	基準	産業組織心理学についての理論的知識を理解し、実践に活かす力を身につけたものを合格とする。
	方法	活動への主体的な参加を評価する。（プロジェクトへの参画 70%、プレゼンへの参加 30%）
備考	社会と関わる演習です。やる気と責任感をもって取り組める人の受講を希望します。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会心理学演習	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	主として社会心理学関連領域の研究論文を演習形式で講読する。 数名のグループで発表用の資料（レジメ等）を作成し、発表を行う中で、心理学の研究知見や理論、研究方法等の理解を深める。
	到達目標	社会心理学関連領域の研究論文を読みこなし、他者に分かりやすく「説明する」ことが出来るようになること。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション／グループ分け (2) 講読論文の選定と発表 発表の仕方、様式等についての解説 (3) 演習日 (4) 演習／発表 ① (5) 演習／発表 ② (6) 演習／発表 ③ (7) 演習／発表 ④ (8) 演習／発表 ⑤ (9) 演習／発表 ⑥ (10) 演習／発表 ⑦ (11) 演習／発表 ⑧ (12) 演習／発表 ⑨ (13) 演習／発表 ⑩ (14) 演習／発表 ⑪ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・発表の事前準備は綿密に行っておくこと。 ・心理学、社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、意味のわからない用語は調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	・研究論文を読み深め、理解し、説明資料を準備し、分かりやすく説明できること。 ・他者の演習・発表に対して、適宜コメント、質問等を行っていること。
	方法	授業への積極的な取り組み、受講態度を重視する。最終試験は課さない。 [授業への取り組み（受講態度など）50%/演習 50%]
備考	初回授業時にグループ分けを行う。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会調査統計	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会調査を実施する能力を養成するための、官庁統計や社会統計として取り上げられることの多い基本的な変数の学習、フィールドワーク論文が読めるための基本的知識の習得を目標にする。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計といった記述統計データの算出や数値の解釈を学習する。さらに、媒介関係や擬似相関、因果関係と相関関係といった、仮説検証手段で陥りやすい誤りについても習得する。また、統計のみに頼らない社会的現実の理解の方法として、観察法やインタビュー記録を参照して、質的なデータ分析の方法も学ぶ。統計解析パッケージにはS
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPSS 統計パッケージを利用して、自分で定量的データの分析ができる。</li> <li>・社会調査のための変数設定や加工、分析結果の読解ができる。</li> </ul>
授業計画	<p>(1) 1 授業の目的:社会調査とはどのようなものかについて、各種報告書を用いての概要説明</p> <p>(2) 2 社会調査で扱うデータの種類(1) 変数の性質 質的(名義)変数と量的(数的)変数について</p> <p>(3) 3 社会調査で扱うデータの種類(2) フェイスシートの構成(性別・年齢・居住形態、就業形態など)</p> <p>(4) 4 社会調査で用いられるデータ集計 データの数量化(度数分布、平均値、中央値、分散、標準偏差、散布度の意味 と算出方法)</p> <p>(5) 5 社会調査で用いられるデータ解析:質的変数の分析(1) クロス集計とカイ2乗分析 残差の見方</p> <p>(6) 6 社会調査で用いられるデータ解析:質的変数の分析(2) 多重クロス集計とエラボレーション</p> <p>(7) 7 社会調査で用いられるデータ解析:量的変数の分析(1) T検定と分散分析</p> <p>(8) 8 社会調査で用いられるデータ解析:量的変数の分析(2) 相関係数、回帰分析</p> <p>(9) 9 社会調査で用いられるデータ解析:量的変数の分析(3)、重回帰分析-1</p> <p>(10)10 社会調査のレファレンス統計(国勢調査、人口動態統計、学校基本調査、労働力調査、就業構造基本調査など)の種類と内容の理解(1)</p> <p>(11)11 社会調査のレファレンス統計(国勢調査、人口動態統計、学校基本調査、労働力調査、就業構造基本調査など)の種類と内容の理解(2)</p> <p>(12)12 社会調査のレファレンス統計(国勢調査、人口動態統計、学校基本調査、労働力調査、就業構造基本調査など)の種類と内容の理解(3)</p> <p>(13)13 47 都道府県の姿を知ろう 国勢調査データを用いて、これまで習った手法で日本のデモグラフィックな動向の加工・分析を行う。</p> <p>(14)14 47 都道府県の姿を知ろう 統計から見える産業・就業構造の国勢調査データを用いて、これまで習った統計手法 で加工・分析を行う。</p> <p>(15)15 統計に頼らないリアリティ フィールドワーク論文の読み方 ドキュメント分析の方法</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「参考文献」を前もって読んでよくと理解しやすくなります。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Moodle の課題を遂行すること。また、SPSS の操作については授業時間外にコンピュータ室で各自練習しておくこと。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しないが、授業での理解が難しいと感じる場合は購入をすすめます。主な資料としては、講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用います。
	参考文献	米川和雄・山崎貞政 著『超初心者向け SPSS の本 統計解析マニュアル』2010 北大路書房 978-4-7628-2706-8 内藤統也(監修)、秋川卓也(著)『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版 4-7687-0863-3 岸 学(著)『SPSS によるやさしい統計学』オーム社 4-274-06620-7
成績評価の基準と方法	基準	授業で扱った変数の種類に応じた分析や検定方法を選択して、SPSS の出力結果が意味するところを解釈できると認められれば合格とします。
	方法	試験 70%、受講態度 20%、演習中で出される課題遂行 10%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会産業実習	
担当者	◎神菌 紀幸 野上 真	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義・実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	現代社会における企業活動を心理学的視点で観察し、分析・考察するために、「地域特産品」開発プロセスに焦点を当てる。商品の特性やねらい、マーケティング状況等を、これらの開発に携わる人々にインタビュー等を実施しながら分析し、その成果を壁新聞等の形で学内外に紹介する。 こうした活動を通じ、企業における研究開発のプロセスやマーケティングについての理解を深めるとともに、効果的プレゼンテーションについて体験的に学習してもらう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの日常生活や社会、さらには企業活動について、心理学的視点で考えることができる。</li> <li>・グループで行う種タスクにメンバーと協力しながら積極的に取り組むことができる。</li> <li>・課題遂行に必要なコンピュータやAV機器の扱いやこれに伴う各種処理技術の獲得と向上。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーション／グループ分け (2) 地域特産品のリサーチ① (3) 地域特産品のリサーチ② (4) 開発者等へのインタビュー活動の計画 (5) 開発者等へのインタビュー活動の実施 (6) インタビュー等を通じた成果のプレゼンテーション (7) 地域特産品紹介壁新聞作成① (8) 地域特産品紹介壁新聞作成② (9) 地域特産品紹介壁新聞作成③ (10) 地域特産品紹介壁新聞作成④ (11) 作品の相互レビュー (12) 壁新聞掲載HP制作① (13) 壁新聞掲載HP制作② (14) 壁新聞掲載HP制作③ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	ネット等を用い、取材対象や作品制作に必要なツールについての情報収集に努めること。
	事後学習	グループ内の協力作業を怠らないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要な資料・教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	授業への取組と授業計画に示したタスクの遂行をもって合格の基準とする。
	方法	複数の教員が独立して評価する。また受講生による相互評価を取り入れる場合もある。
備考	初回授業時にグループ分けする。4・5限の両方とも登録、受講すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	比較教育概論	
担当者	田口 康明 / TAGUCHI, Yasuaki	
科目情報	心理臨床<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	比較教育学は、日本とは異なる国や地域の教育制度や教育事情にふれることによって、その国や地域の理解に努めるとともに、翻って日本の教育に特質を明らかにするものである。そこでこの講義は、比較教育学と何かについて、諸外国の教育事情について紹介し、日本の教育との違いを検討する。
	到達目標	1) 比較教育学の歴史を理解する。近代の国民国家の成立との関連について把握する。 2) ポストモダンの状況が比較教育学にもたらしている影響について理解する。 3) 近年の国際教育調査の各国の教育改革への影響について理解する。 4) 教育の受容と変容について理解する。
授業計画	(1) ガイダンスーこの授業の目的・進め方等 (2) 比較教育学とは何 その1 伝統的比較教育学の内容と定義 (3) 比較教育学とは何 その2 比較教育学の歴史 (4) 揺らぎの中の比較教育学 その1 地域主義・超地域主義 (5) 揺らぎの中の比較教育学 その2 ポストモダンとは何か (6) 揺らぎの中の比較教育学 その3 ポストモダンと比較教育学 (7) 比較教育学の新領域 その1 多文化主義 (8) 比較教育学の新領域 その2 多文化教育 (9) 比較教育学の新領域 その3 多文化教育の実際 アメリカ (10)比較教育学の新領域 その4 多文化教育の実際 日本 (11)比較教育学の新領域 その5 国際教育調査の衝撃 (12)比較教育学の新領域 その6 国際教育調査を受けた各国の教育改 (13)比較教育学の新領域 その7 国際教育調査を受けた各国の教育改 (14)比較教育学の新領域 その8 受容と変容の教育実践 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 ・授業において次回の使用プリントを配布する。それを前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業内容・感想・質問などを毎回 400 字程度でまとめておくこと（リアクションペーパー）。毎回、提出を求める。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	比較教育学の理論と方法 ユルゲン・シュリーバー著 東信堂 2000 年 ISBN4-88713-370-7 比較・国際教育学（補正版） 石附実編著 東信堂 1998 年 ISBN4-88713-298-0 など
成績評価の基準と方法	基準	到達目標の 1) ～4) の理解
	方法	試験 80%、小レポート 10%、リアクションペーパーの提出度 10%
備考	授業時以外の問い合わせはメールで(taguchi@k-kentan. ac. jp)	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	特殊研究 I	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業論文の作成に向けて、主に研究の方法論を学び、興味関心を絞り込み、当該領域における問題意識を焦点化することを目的とする。またデータ収集を行うにあたっての倫理観を養う。
	到達目標	卒業論文で扱うテーマを絞り込み、当該領域における研究知見を整理し、研究を行うに当たっての問題意識を明確化できること。研究を行う上での厳粛適正な倫理観を持つこと。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 興味・関心領域の絞り込み (3) 〃 (4) 〃 (5) 2. 「問題」の提出：問題意識を研究可能な形（問い）で示す (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 3. 研究法の習得：文献収集の方法、論文講読と要約の仕方を学ぶ (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 4. 研究計画の作成 (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文で取り組むテーマを絞り込み、先行研究をレビューし、問題意識を明確化すると共に、それらを研究可能な「問い」の形で提示できることが合格の目安となる。
	方法	授業への取り組みや成果を総合的に評価する。
備考	2年生以下の受講は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	特殊研究Ⅱ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床＜特殊研究＞ / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	特殊研究Ⅰを踏まえて、卒業論文の作成に向けて、研究計画を立案し、研究材料の作成、計画の実行、データの収集を行う。
	到達目標	研究計画を作成し、データの収集を行うこと。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 先行研究の詳細なレビュー (3) 1. 先行研究の詳細なレビュー (4) 2. 研究計画の立案 (5) 2. 研究計画の立案 (6) 3. 研究材料の作成 (7) 3. 研究材料の作成 (8) 4. パイロットスタディ（予備調査）の実施 (9) 4. パイロットスタディ（予備調査）の実施 (10) 5. 研究計画・研究材料の修正 (11) 5. 研究計画・研究材料の修正 (12) 6. 研究計画の実行／データの収集 (13) 6. 研究計画の実行／データの収集 (14) 6. 研究計画の実行／データの収集 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	研究計画を作成し、計画を実行し、データを収集することを合格の目安とする。
	方法	授業への取り組みや成果を総合的に評価する。
備考	3年生以下の受講は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	特殊研究Ⅲ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	特殊研究Ⅰ及びⅡを踏まえて、収集したデータの集計方法、処理の仕方や具体的解析の方法について学び、実行する。また研究成果の発表（プレゼンテーション）を行う。
	到達目標	収集したデータを整理し、適切な処理を行い、研究の結論を導くこと。また研究成果を分かりやすく、他者にプレゼンテーション出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 収集したデータの整理、処理の方法を学ぶ (3) 1. 収集したデータの整理、処理の方法を学ぶ (4) 1. 収集したデータの整理、処理の方法を学ぶ (5) 2. データの解釈と再分析 (6) 2. データの解釈と再分析 (7) 2. データの解釈と再分析 (8) 3. 結果を整理し、研究知見をまとめる (9) 3. 結果を整理し、研究知見をまとめる (10)4. 先行研究を踏まえ、得られた結果について考察する (11)4. 先行研究を踏まえ、得られた結果について考察する (12)5. プレゼンテーションの準備をする (13)5. プレゼンテーションの準備をする (14)5. プレゼンテーションの準備をする (15)総まとめ（プレゼンテーションの実施）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	データを整理し、適切な処理を行い、そこで得られた知見をまとめ上げ、明解なプレゼンテーションが行えることを合格の条件とする。
	方法	授業への取り組みや成果を総合的に評価する。
備考	3年生以下の受講は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル